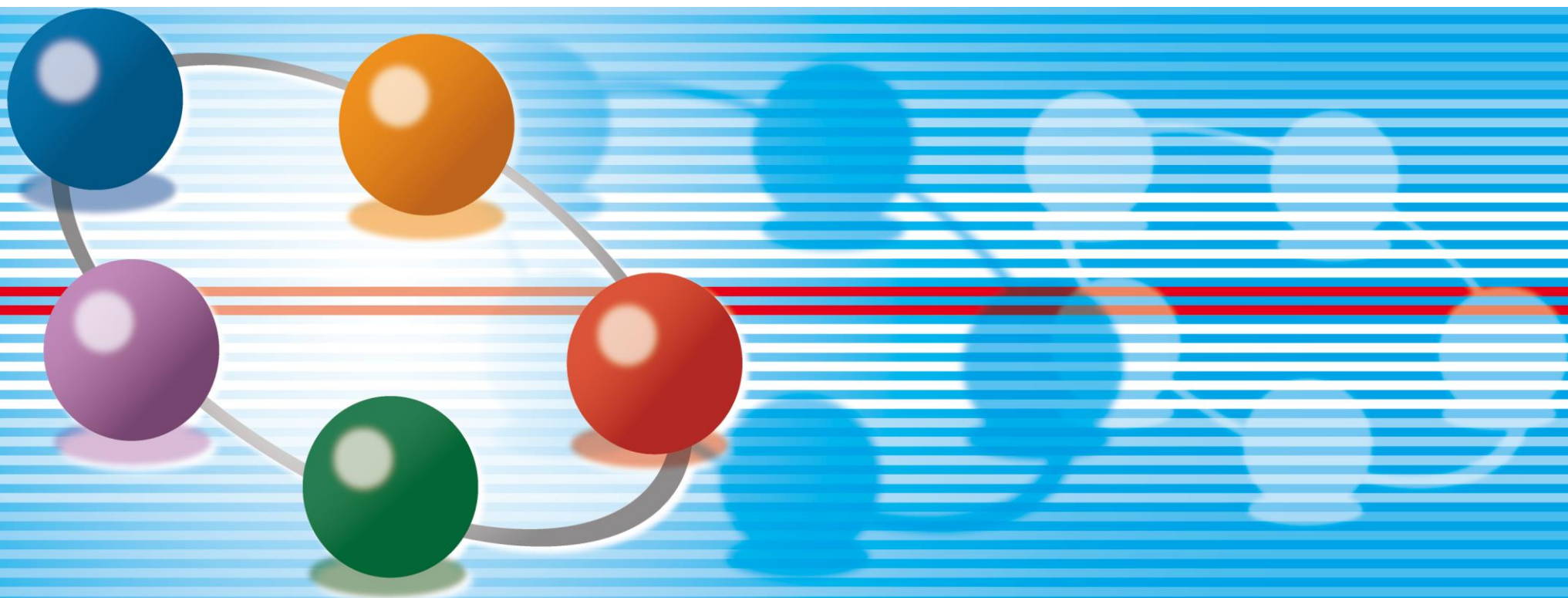




**株式会社カワタ**  
**2023年3月期 第2四半期 決算説明会資料**  
**2022年11月22日**

(証券コード 6292 東証スタンダード市場)



# 目次

---

I . 会社概要	.....	2
II . 決算実績・業績予想	.....	11
III . 経営戦略	.....	28
Appendix. I	.....	41
Appendix. II	.....	46



# I. 会社概要



# 1. 会社概要

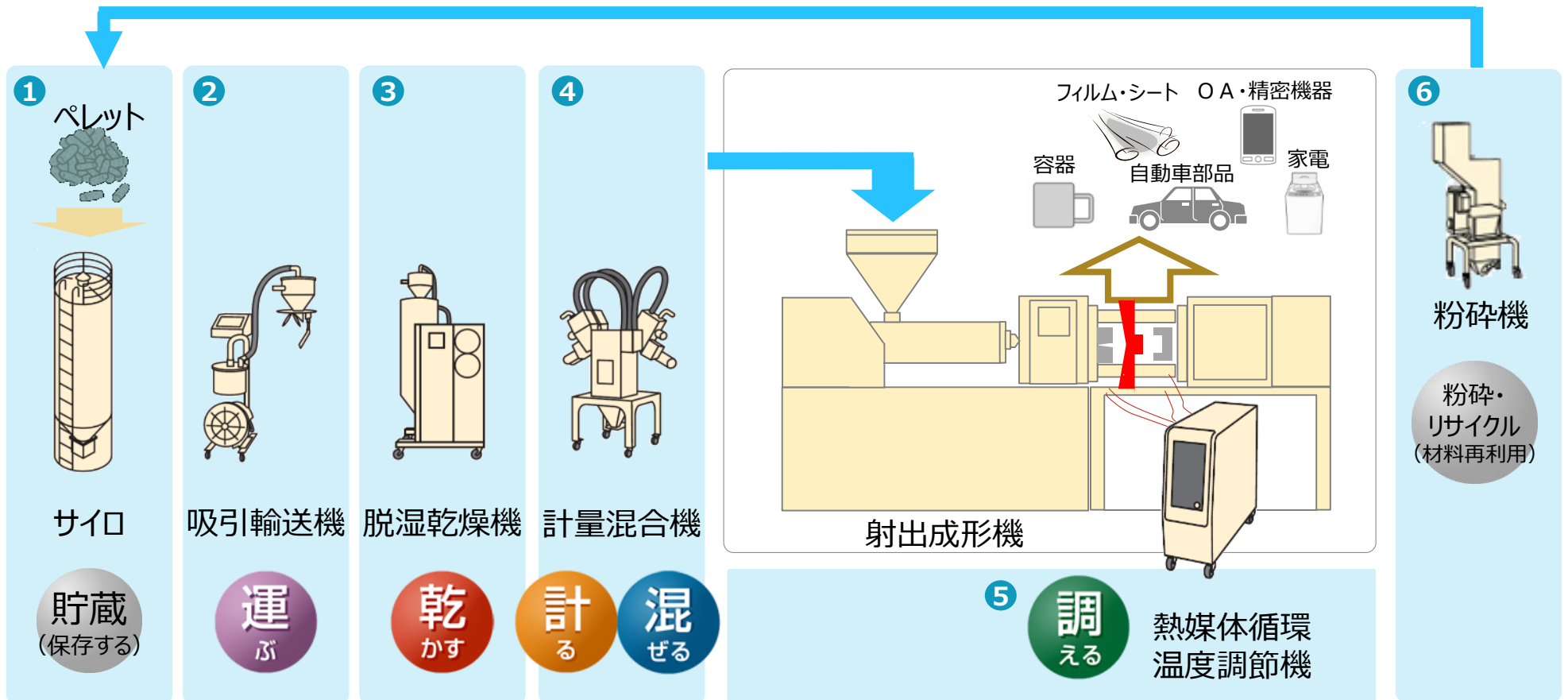
会社名	株式会社 カワタ	Kawata MFG. Co.,Ltd.
本社	大阪市西区阿波座1丁目15番15号（第一協業ビル）	
創業	1935年9月10日	
設立	1951年7月13日	
事業内容	プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス	
代表者	白石 亙	
売上高	18,383百万円（2022年3月期、連結）	
経常利益	903百万円（ " ）	
（親会社）当期純利益	540百万円（ " ）	
資本金	977百万円（2022年3月末現在）	
従業員数	795名（2022年3月期、連結）	
子会社数	14社（国内3社、海外11社） （2022年3月末現在）	



三田（さんだ）工場（兵庫県）

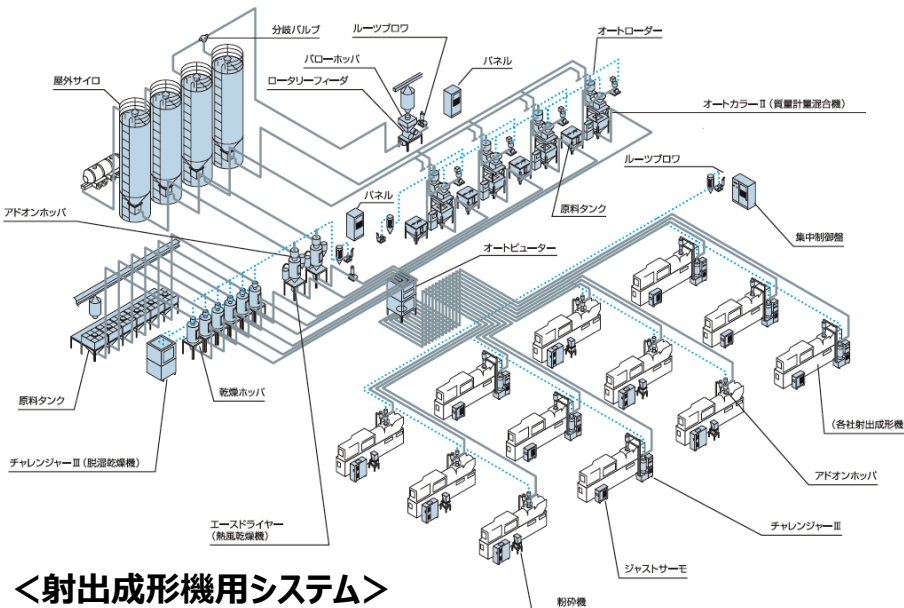
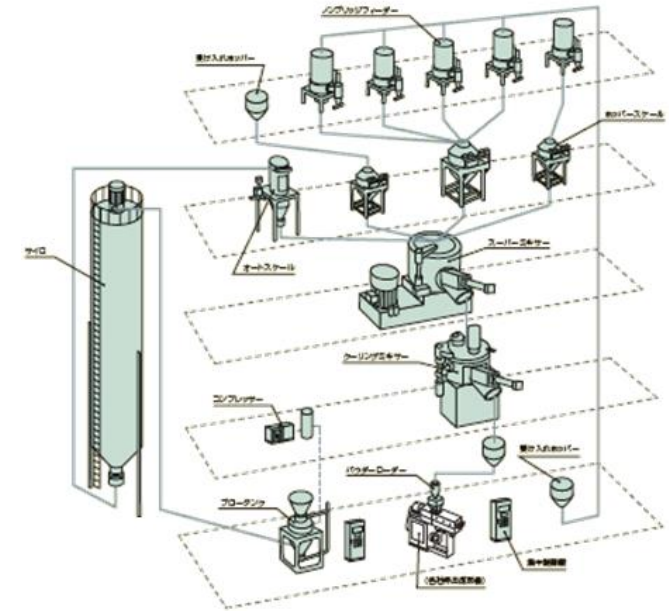
## 2. 事業内容：プラスチックを主とする製品製造工程の概要

- 事業内容：プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス
- 5つのコア技術（運ぶ・乾かす・計る・混ぜる・調える）をもとにプラスチック製品製造における成形加工工程（主に原料供給工程）をシステムにて提供



## 2. 事業内容：射出成形機用システム/押出成形機用システム

### <押出成形機用システム>

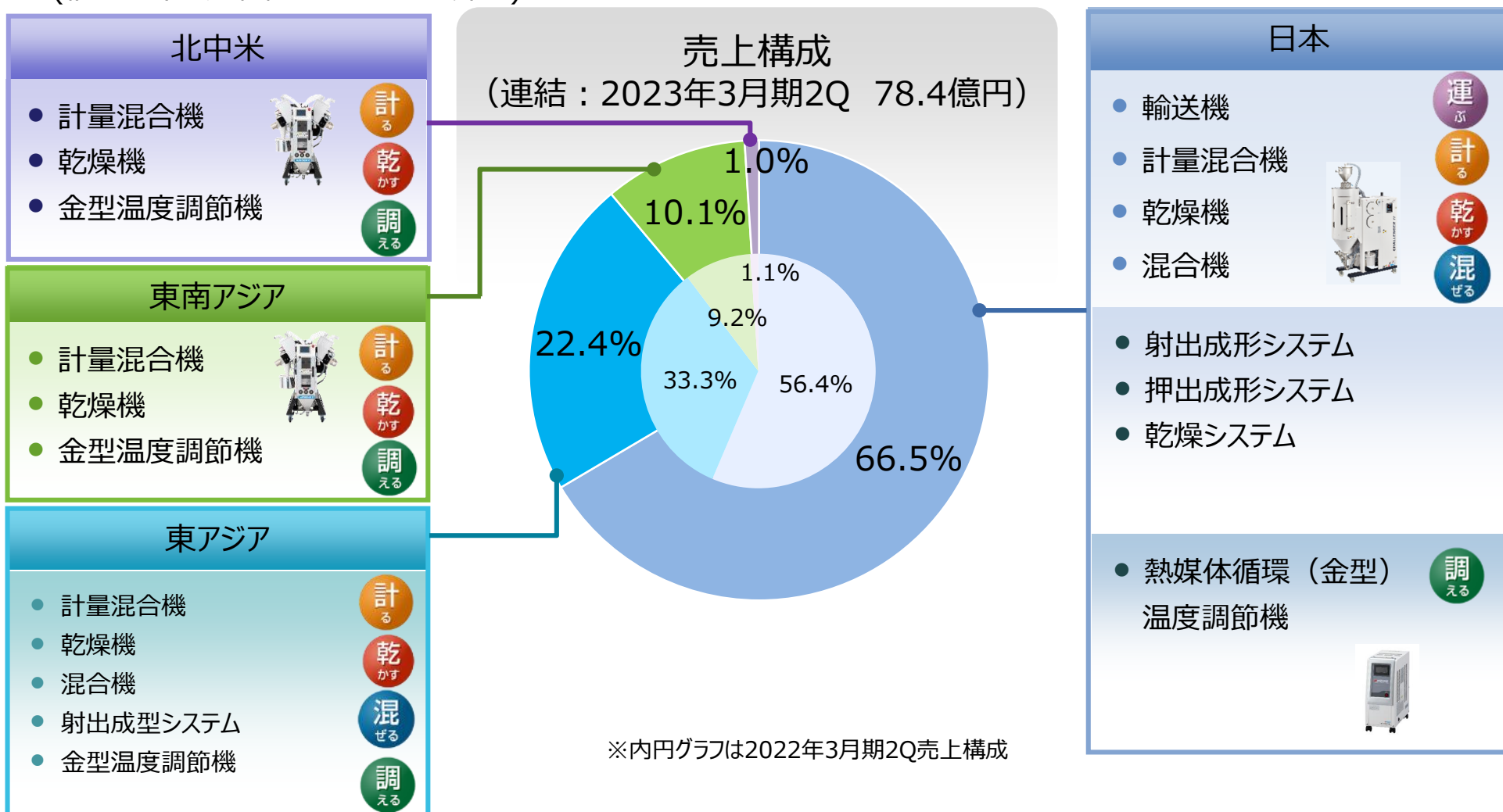


### <射出成形機用システム>



### 3. 売上構成

- 日本は日用雑貨や容器・物流関連分野が引き続き堅調に推移したことに加え、電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連の受注が堅調に推移したこと等で、売上構成比率が上昇。東アジアは中国のゼロコロナ政策に伴う上海市のロックダウンによる一時的な工場の操業停止により前年同期比で売上大幅減となり、売上構成比率が低下。東南アジアは前期と概ね同水準。北中米の売上高は前年同期比で小幅減少し構成比率はほぼ横ばい。
- 各セグメント別の構成比率は、前年同期比で、日本10.1%増、東アジア10.9%減、東南アジア0.9%増、北中米0.1%減(構成比率は連結調整額を除いて算出)



# 4. 生産・販売・サービス体制

● 世界4極体制によりグローバル最適な販売・供給・サービス体制を整備

中国



- 日系企業～ローカル企業向け製品を開発、販売シェア拡大
- 電池関連、医療分野、包装業界向け製品の開発・販売

日本



- 自動車部品向け戦略製品を投入
- フィルムシート業界先端ニーズ取込み

北中米

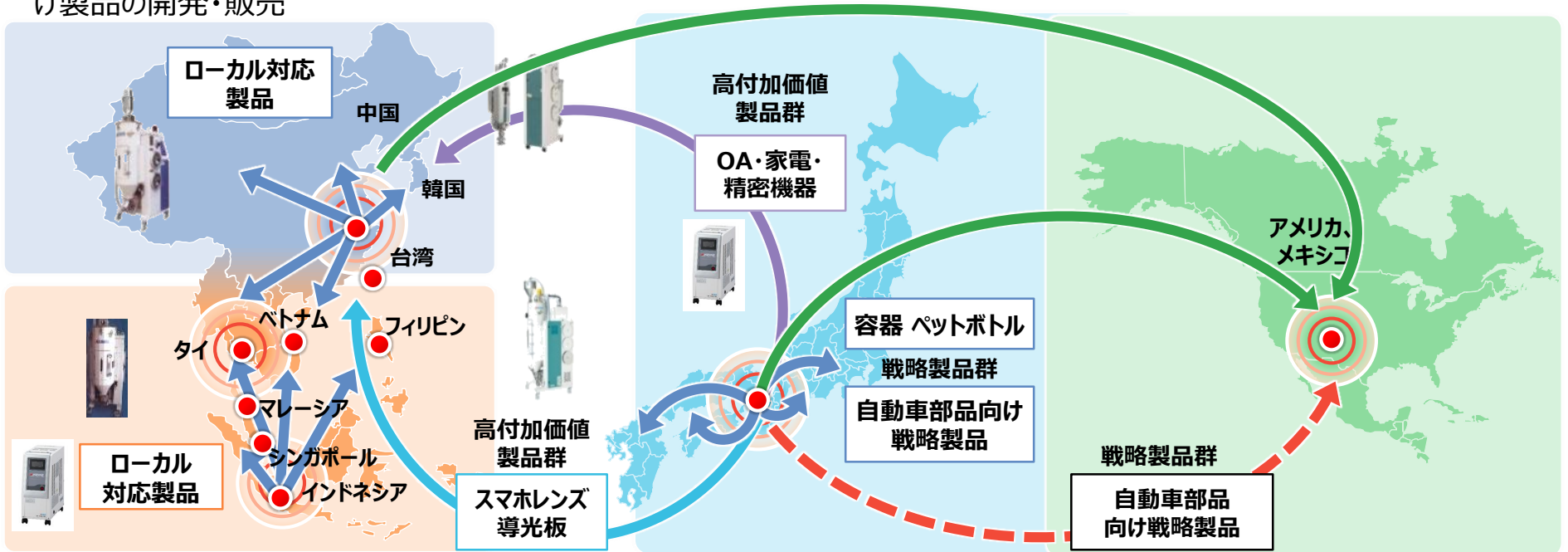


- 自動車部品向け戦略製品を投入
- 米国は販売・サービス体制を整備

東アジア

東南アジア

北中米



東南アジア



- インドネシア工場の製品を安定供給、販売・サービス網の整備による販売の拡大
- 自動車関連分野とプリンタを中心としたOA、家電関連業界への拡販

台湾／韓国

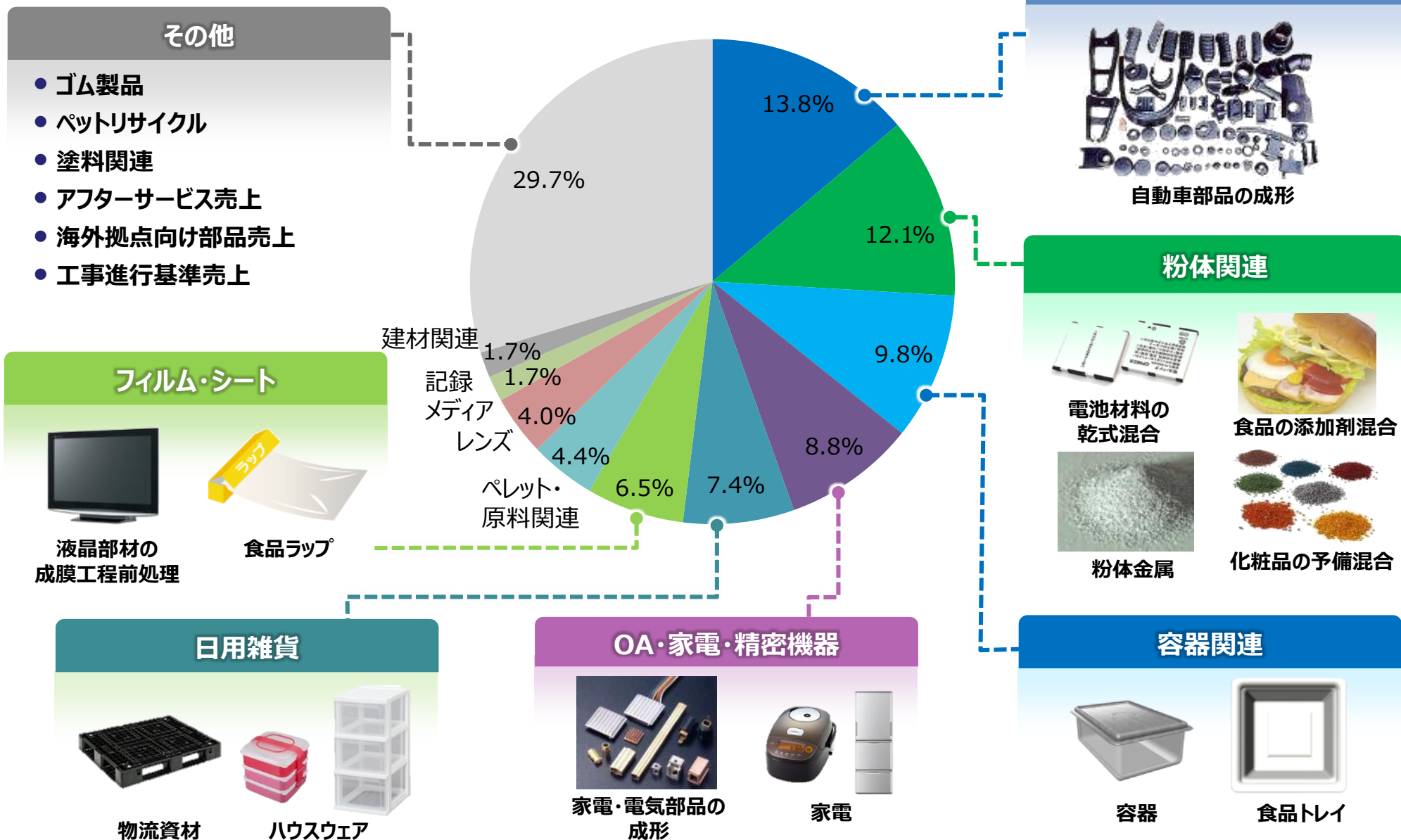


- 日本から台湾・韓国へスマホレンズ・VRレンズ、高付加価値製品の販売を拡大

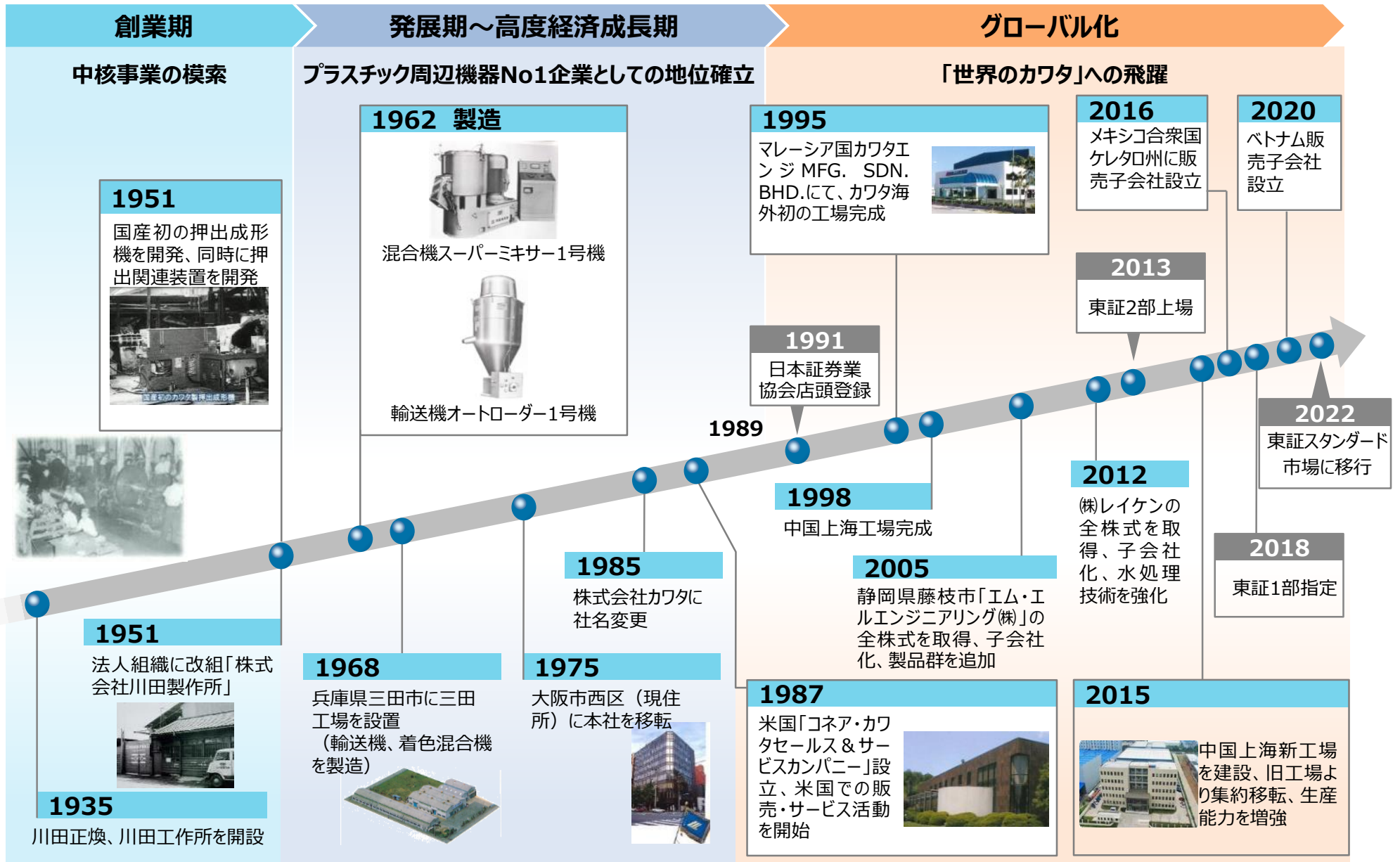


# 5. 主な販売業界（単体）

販売先別売上構成  
(単体：2023年3月期2Q 36.5億円)



# 6. 会社沿革



# 7. カワタグループ概要

- 国内外に14社の子会社（2022年9月末現在）



## 日本



### 株式会社 サーマテック

金型温度調節機器、水関連機器の製造

### エム・エルエンジニアリング株式会社

プラスチック製品製造機器の製造、販売・サービス

### 株式会社 レイケン

金型温度調節機器の販売、水関連機器の製造、販売・サービス

## 東アジア



### 川田機械製造（上海）有限公司

プラスチック製品製造機器の製造、販売・サービス

### 川田機械香港有限公司

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### 川田國際股份有限公司（台湾）

プラスチック製品製造機器の販売・サービス

## 東南アジア



### カワタパシフィックPTE. LTD.（シンガポール）

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### カワタタイランドCO., LTD.

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### カワタマーケティングSDN.BHD.（マレーシア）

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### PT.カワタインドネシア

プラスチック製品製造機器の製造

### PT.カワタマーケティングインドネシア

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### カワタマシナリーベトナムCO., LTD.

プラスチック製品製造機器の販売・サービス

## 北中米



### カワタU.S.A. INC.

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



### カワタマシナリーメキシコ S.A. DE C.V.

プラスチック製品製造機器の販売・サービス



## Ⅱ. 決算実績・業績予想



# 1. 決算概要総括

## ① 売上・利益の概要

### 市場環境

#### 国内

- ワクチン接種の普及とウイズコロナ政策の進展等に伴い、景気は回復基調にあったものの、資源価格の高騰や円安等に伴う物価上昇などの下押し圧力により、先行き不透明な状況が続く
- 一方、製造業の機械受注額は回復基調で推移

#### 海外

- ウクライナ情勢の長期化や中国での厳格なゼロコロナ政策の継続等による地政学的リスクの高まりや、資源価格の高騰、欧米におけるインフレ率の急激な上昇に伴う金融引き締め加速等により、先行き不透明感が強まる

### 売上面

**連結売上高**  
7,843百万円  
(前年比▲7.2%)

#### 国内

- 日用雑貨や容器・物流関連、新素材・食品シート関連を中心とした受注に加え、電気自動車（EV）向けのリチウムイオン電池関連の受注も堅調に推移

#### 海外

- 東アジアセグメントでは、EV向けのリチウムイオン電池関連、スマホ・VRレンズ関連の受注は堅調に推移したものの、上海市ロックダウンによる一時的な工場の操業停止が発生
- 東南アジアセグメントでは、各国のウイズコロナ政策の推進のもと、景気は回復基調にあるものの、上記の操業停止により、中国子会社製品の販売活動の制限を受ける

### 利益面（費用面）

- 売上高の減少及び販管費の増加により、営業利益、経常利益、（親会社）当期純利益ともに前年同期を下回る

**営業利益**  
▲38百万円  
(前年+289百万円)

- 売上総利益率は上昇（28.2→28.7%）したものの、売上高の減少に伴い、売上総利益が前年同期比132百万円減少
- 売上高の減少に伴い運賃・梱包費は減少したものの、活動量の増加に伴う移動経費の増加、大阪第二オフィス開設、海外子会社の換算レート差等により、販管費は前年同期比195百万円増加

**（親会社）当期純利益**  
▲31百万円  
(前年+159百万円)

- 営業外損益全体+223百万円（前年同期+24百万円）、特別損益全体▲109百万円（前年同期▲13百万円）
- 法人税等合計112百万円（前年同期136百万円）

## 1. 決算概要総括

### ② 経営成績、その他に関する分析等

#### 地域別状況

- 日本 : 日用雑貨や容器・物流関連、新素材・食品シート関連を中心とした受注、並びに電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連の受注が堅調に推移したこと等により売上高は前年同期より増加。損益面では、資源価格の高騰などで売上総利益が悪化したことより、販売費及び一般管理費の増加を吸収するまでには至らず、営業利益は前年同期より減少。
- 東アジア : 引き続き電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連並びにスマホ・VRレンズ関連の受注は堅調に推移したものの、上海市ロックダウンによる工場の一時操業停止により、売上高は大幅に減少し、営業赤字。
- 東南アジア : 景気は回復基調にあるものの、中国工場の一時操業停止の影響で同社製品の販売活動が制限されたが、売上高は前年同期を上回り、売上総利益率も改善。しかし、販売費及び一般管理費の増加をカバーできず、営業赤字。
- 北中米 : 中米において自動車関連を中心とした需要が回復しつつあるが、設備投資の回復まで至らず、営業赤字。

#### 利益の状況

- 材料費を中心とした原価低減並びに業績連動部分の費用削減等に努め、日本セグメントでは比較的堅調な業績となったものの、主として東アジアセグメントの落込が大きく、前年同期を下回る。

#### キャッシュ・フローの状況

- 受注高及び経常運転資金（売上債権＋棚卸資産－仕入債務）の増加に加え、税金等調整前当期純利益が減少したことにより、営業キャッシュフローの増加額は前年同期に比べ減少。
- ウクライナ情勢の長期化、中国によるゼロコロナ政策の継続等、懸念材料への配慮と安定的な経常運転資金確保の観点から、手元流動性を厚く設定したため、現預金残高は増額。

#### 特記事項

- 世界経済は、緩やかな回復基調が続いてきたが、インフレの加速とそれに伴う各国中央銀行の相次ぐ金融引き締めにより不透明感が強まる。資源価格の高騰とウクライナ情勢の長期化や中国の厳格なゼロコロナ政策の継続など地政学的リスクが高まる。
- わが国経済も、ウイズコロナ政策のもと、経済活動の正常化に向けた回復の動きが続いているものの、原材料価格の高騰や急激な円安の進展等により景気下振れリスクが強まる。
- EV関連（正極材、セパレータフィルム等）向けの機器の出荷は、連結全体の約2割未満と推定。中国自動車エンジニア学会が発表した「省エネルギー・新エネルギー車技術ロードマップ2.0」では、2035年までに新車販売台数のうち、EVを柱とする新エネルギー車の比率を50%とし、残る50%を占めるガソリン車は全てHVにし、HVでない従来のガソリン車などは製造・販売を停止する方針であることから、今後の需要拡大があるものと予想。
- 使い捨てプラスチックの削減による当社の業績への影響は現時点では軽微であるが、バイオプラスチックやその他新素材への対応やリサイクルに向けた取組みは今後も強化。

## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ① 損益計算書 (P/L) (連結)

(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	8,450	100.0	▲2.8	7,843	100.0	▲7.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本セグメントでは、日用雑貨や容器・物流関連に加えE V電池関連も堅調に推移</li> <li>東アジアセグメントでは、上海市ロックダウンに伴う一時的な工場の操業停止の制限を受ける</li> </ul>
売上総利益	2,381	28.2	4.2	2,249	28.7	▲5.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料費を中心とした原価低減や諸経費の削減に努め、売上総利益率は上昇</li> </ul>
販売費及び一般管理費	2,092	24.8	5.3	2,287	29.2	9.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動量の増加に伴う移動経費の増加</li> <li>海外子会社における換算レート差による増加</li> </ul>
営業利益	289	3.4	▲3.3	▲38	▲0.5	－	
経常利益	314	3.7	11.7	185	2.4	▲41.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>営業外損益 24→223 うち為替差損益 23→221</li> </ul>
(親会社)当期純利益	159	1.9	20.8	▲31	▲0.4	－	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症関連損失 108</li> <li>法人税等合計136→112</li> </ul>
減価償却費	155	－	▲2.8	159	－	2.8	
設備投資額	76	－	98.7	359	－	368.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>カワタテクニカルセンター関連支出（土地、既存建物解体工事等）286</li> </ul>

## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ② 2023年3月期第2四半期振り返り

#### 1) 目標数値の振り返り

2023年3月期第2四半期の通期目標に対する売上高の進捗率は計画値対比34.1%、営業利益は赤字、経常利益は同12.6%、(親会社)当期純利益は赤字。2022年10月31日に「業績予想の修正に関するお知らせ」を開示し、通期目標を変更。修正後の売上高は前回予想23,000百万円から3,400百万円減の19,600百万円。受注高は前年同期比+11.3%の12,033百万円、受注残高は前年同期比+71.5%の12,346百万円であることから通期修正目標の売上高は達成可能と考える。

#### 2) 経営戦略の振り返り

新規市場、成長分野における事業展開の強化

- 情報収集、調査や分析に基づく、地域セグメント毎のミッションやコンセプトの再構築が進行中。
- 北中米では、アメリカとの国境地域である、メキシコ・ティファナにサービス拠点を開設し、同地域の日系・中国系ユーザーへのサービス力向上。また、アメリカでは今後の業容拡大を見込み、事務所を移転し拡張。
- 自動車業界のCQI-23への対応について、内容の検討を進めた。
- 次世代電池技術や新製品開発は順調に推移し、次世代電池向けの実機納入も進んだ。
- 成形工場における通信対応(IoT)を順次強化実施。
- 光学部品業界では、スマートフォン用レンズ向けの他にVRレンズ向けの需要が増加。
- 各種成形工場内における原材料の再利用のための対応強化。
- プラスチック混合技術を活かした、地球環境に優しい新素材や複合素材への対応。
- 油脂分除去装置の開発、販売に取り組み、各種工場の環境改善を展開。
- 開発関連、品質関連でのグループ間での相互指導や情報共有の強化。

既存市場、既存分野での販売拡大と収益力向上

- グループ間での特許関連やライセンスの契約を積極的に行い、機器や機能の向上を推進。
- 東南アジア向けに機器のラインアップを追加し、更なる機器の追加に向けて取組みを進めた。
- 株式会社クボタ計装からのカラーエレクトロニクス事業譲渡(2023年4月1日)に向け、製造、販売、アフターサービスに関する事業受入の体制作りを開始。

経営基盤の強化とESG 経営の推進

- グループの持続的成長を図っていくうえでの「人的資本の投資」の一環として、カワタテクニカルセンターを建設中。メーカーとして必須の技術・技能の伝承並びに当社グループの製品開発力、技術力、営業力、サービス対応力の更なる強化を図る。
- 基幹システムを含む各種システムの見直しを推進中。
- 日本では働き方改革関連法案に対応した改正労働基準法に基づき、年5日の年次有給休暇の確実な取得への対応や、労働時間管理の徹底を引き続き推進。
- 在宅勤務、リモート会議、時短勤務についても引き続き対応中。



## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ③ セグメント別売上高・営業利益（連結）

（単位：百万円、%）

(売上高)	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	5,086	56.4	▲16.1	5,596	66.5	10.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>日用雑貨や容器・物流関連分野が引き続き堅調に推移。電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連の受注が堅調に推移</li> </ul>
東アジア	3,005	33.3	22.8	1,885	22.4	▲37.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゼロコロナ政策に伴う上海市のロックダウンによる中国工場の一時操業停止により売上大幅減</li> </ul>
東南アジア	833	9.2	16.0	848	10.1	1.8	<ul style="list-style-type: none"> <li>景気は回復の動きがあるが、設備投資の増加までに至らず。中国工場の一時操業停止の影響により前年同期比並みに推移</li> </ul>
北中米	94	1.1	149.0	87	1.0	▲7.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>中米において自動車関連を中心とした需要が回復しつつあるが、売上増には至らず</li> </ul>

(営業利益)	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	265	96.5	▲53.1	214	-	▲19.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上総利益率は、材料費を中心とした原価低減や諸経費の削減等により改善したが、日本は材料費高騰を吸収できず前期比マイナス</li> <li>販管費の増加により、売上総利益率の改善分ではカバーできず、日本以外は営業赤字</li> <li>売上総利益率 (2022年3月期2Q → 2023年3月期2Q) <ul style="list-style-type: none"> <li>全体 : 28.2%→28.7%</li> <li>日本 : 26.0%→24.5%</li> <li>東アジア : 25.3%→30.2%</li> <li>東南アジア : 32.6%→36.7%</li> <li>北中米 : 30.2%→31.4%</li> </ul> </li> </ul>
東アジア	44	16.0	-	▲164	-	-	
東南アジア	4	1.5	-	▲12	-	-	
北中米	▲38	▲14.0	-	▲59	-	-	

(注) 構成比は連結調整額を除いて算出

## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ④ 受注実績（連結）

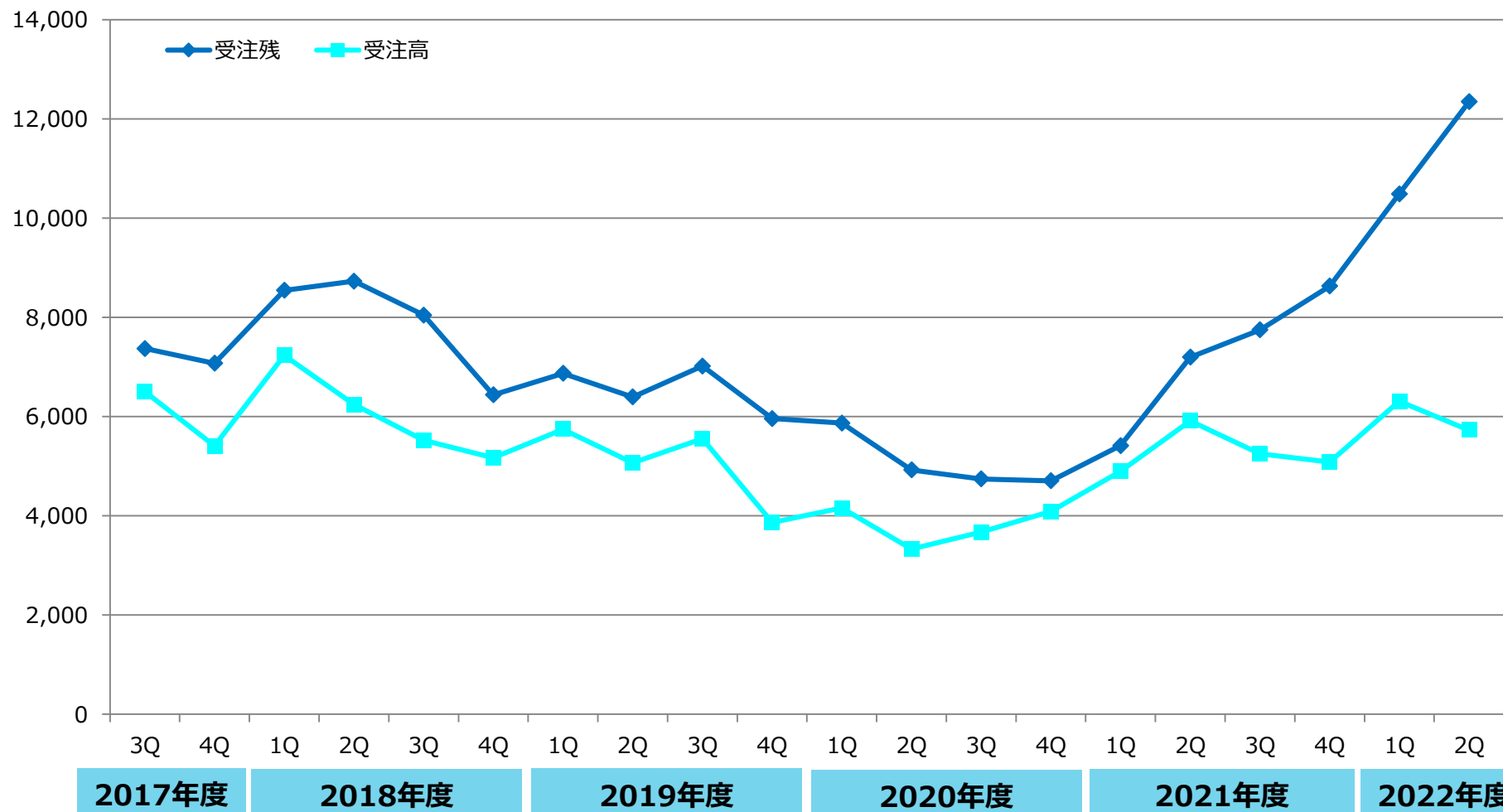
							(単位：百万円、%)
(受注高)	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	6,261	57.9	27.5	7,832	65.1	25.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>日用雑貨や容器・物流関連分野と、電気自動車(EV)向けのリチウムイオン電池関連の受注が堅調に推移</li> </ul>
東アジア	3,589	33.2	87.2	3,384	28.1	▲5.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>台湾におけるVRレンズ業界関連の受注が堅調であったが、中国工場の一時操業停止の影響により前年同期を下回る</li> </ul>
東南アジア	851	7.9	38.2	747	6.2	▲12.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>景気は回復の動きがあるが、設備投資の増加までに至らず、前年同期を下回る</li> </ul>
北中米	108	1.0	152.3	68	0.6	▲37.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>メキシコは前年同期を上回る結果であったが、アメリカは低調に推移</li> </ul>
合計	10,810	100.0	44.4	12,033	100.0	11.3	
(受注残高)	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	4,203	58.4	37.3	8,107	65.7	92.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本、東アジアセグメントで前年同期比大幅増。案件の大型化による納期の長期化も受注残高の増加要因のひとつである</li> </ul>
東アジア	2,526	35.1	60.3	3,680	29.8	45.6	
東南アジア	405	5.6	57.0	517	4.2	27.7	
北中米	61	0.9	105.1	41	0.3	▲32.3	
合計	7,197	100.0	46.1	12,346	100.0	71.5	

## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ⑤ 受注残・受注高の推移

- 受注高は2021年3月期2Qが底であり、3Q以降増加傾向であったが、現在は6,000百万円前後で推移。
- 受注残高は2021年3月期4Qが底であり、2022年3月期1Q以降、増加に転じた。部品の供給不足の長期化に加えて案件の大型化も受注残高の増加要因。
- 日本ではLIB関連、新素材関連、日用品関連での受注が増加した。台湾でのVRレンズ関連の受注が増加。

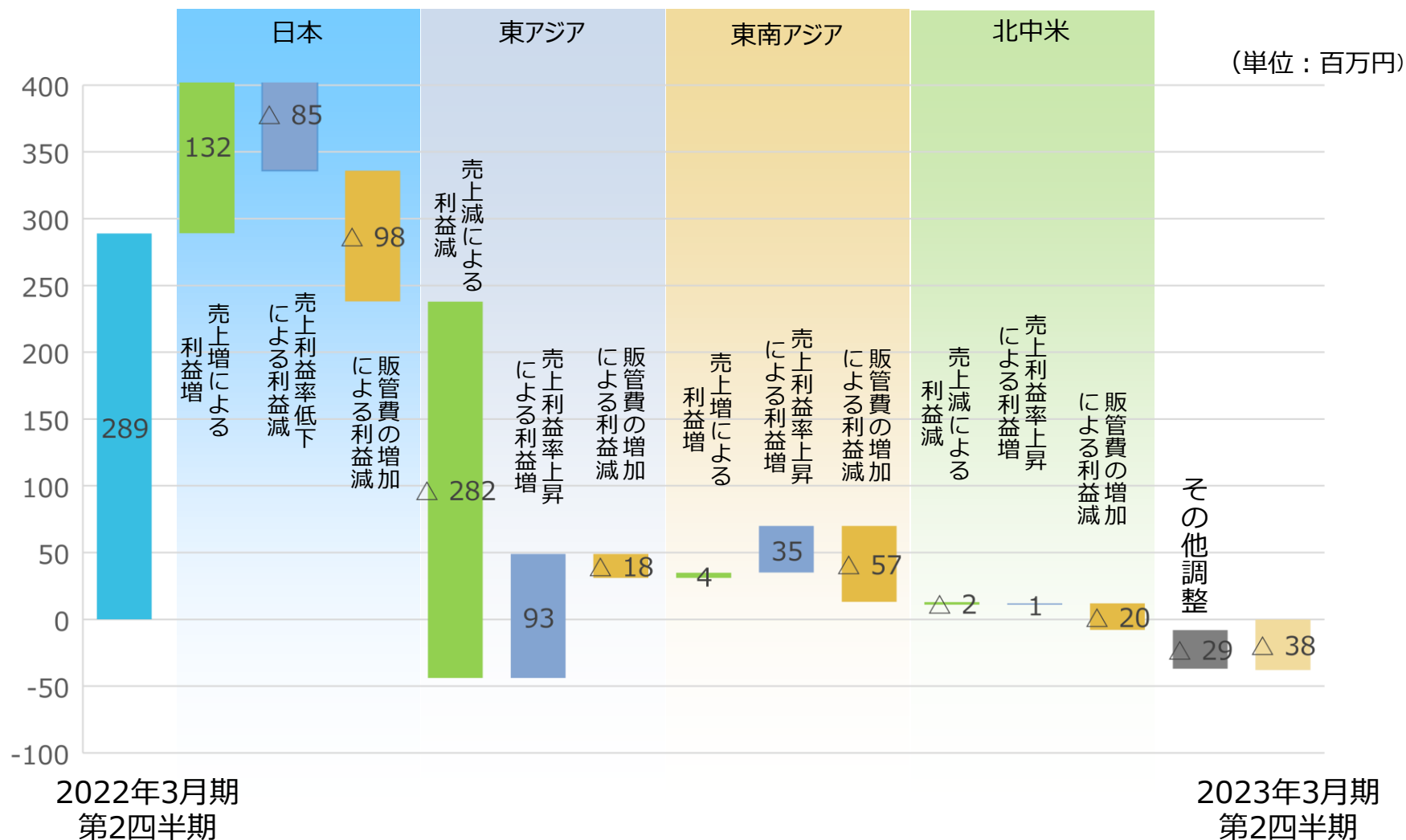
(単位：百万円)



## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ⑥ 営業利益増減要因（連結）

- 日本セグメントを中心に受注高は堅調に推移したものの、サプライチェーンの混乱、操業停止等に伴う東アジアセグメントの落込が大きく、前年同期に対して減益



## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ⑦ 貸借対照表 (B/S) (連結)

(単位：百万円)

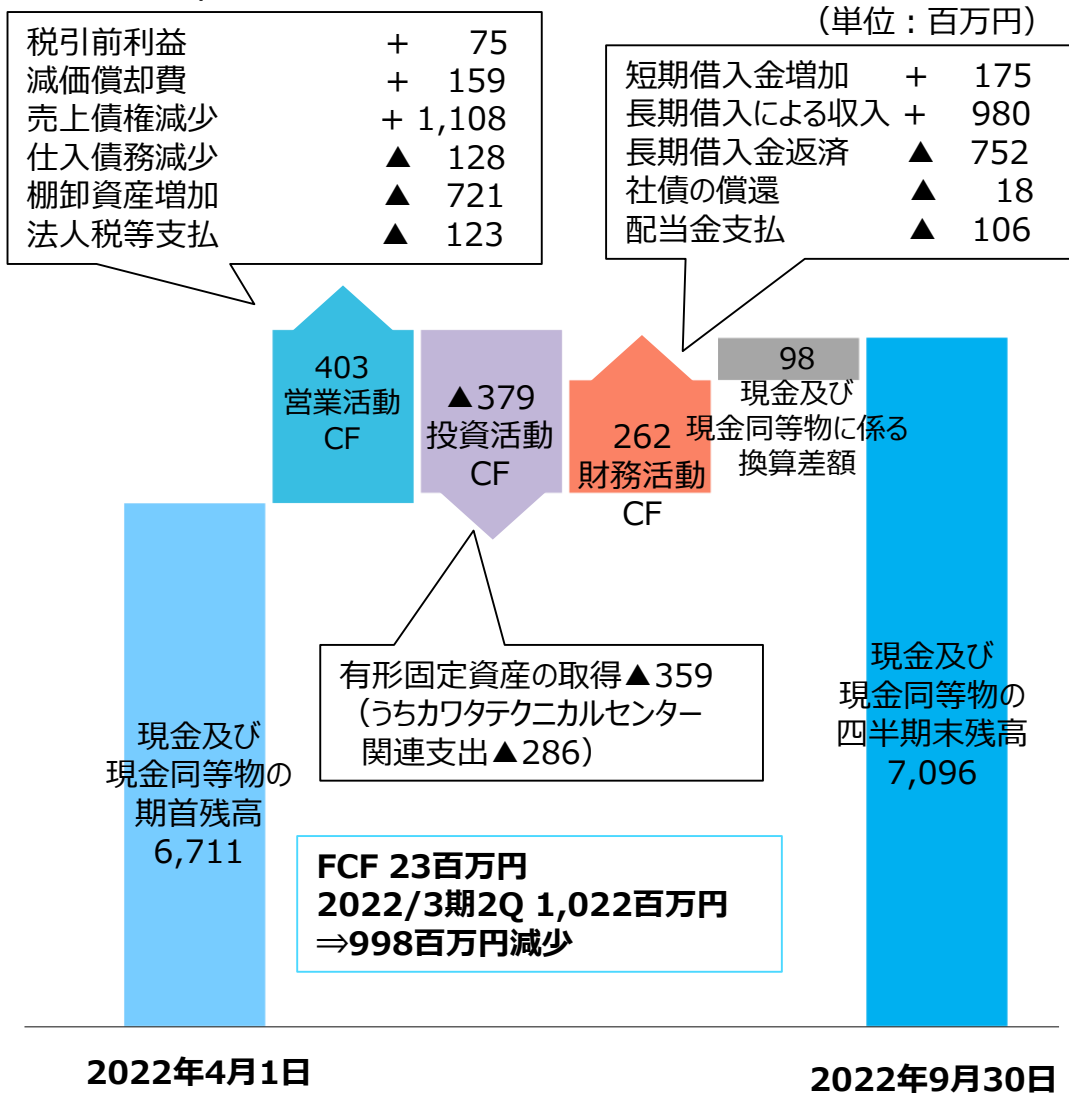
	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減額	コメント
流動資産	16,604	17,382	777	
現金及び預金	6,764	7,196	432	■ 手元流動性重視による積み増し
受取手形、売掛金及び 契約資産	6,495	5,742	▲752	■ 売上高の減少
たな卸資産	2,889	3,831	941	■ 受注高の増加
固定資産	5,431	5,877	445	
有形固定資産	4,231	4,662	431	■ カワタテクニカルセンター関連
無形固定資産	542	597	55	
投資その他の資産	657	616	▲40	
資産合計	22,036	23,259	1,222	
	2022年3月期	2023年3月期 第2四半期	増減額	コメント
負債合計	10,714	11,553	839	
(有利子負債残高)	4,809	5,229	420	■ 手元流動性重視による積み増し
純資産合計	11,322	11,705	383	
負債純資産合計	22,036	23,259	1,222	

## 2. 2023年3月期第2四半期決算実績

### ⑧ キャッシュ・フローの増減（連結）

- フリー・キャッシュ・フローは2022年3月期第2四半期の1,022百万円から998百万円減少

	2022年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第2四半期	増減額
営業活動による キャッシュ・フロー	1,167	403	▲764
投資活動による キャッシュ・フロー	▲145	▲379	▲234
財務活動による キャッシュ・フロー	▲810	262	1,073
現金及び現金同等 物に係る換算差額	125	98	▲27
現金及び現金同等 物の増減額	336	384	47
現金及び現金同等 物の期首残高	6,630	6,711	81
現金及び現金同等 物の四半期末残高	6,967	7,096	128



### 3. 事業環境

## ① 新型コロナウイルスへの対応状況と事業環境の見通し

#### 当社グループの足元の状況

- 現時点においては、中国を除くと新型コロナウイルス感染拡大による直接的な影響は限定的である。
- 中国工場の一時的な操業停止により、操業停止期間中に発生した製造固定費(人件費、減価償却費、賃借料等)を新型コロナウイルス感染症関連損失として特別損失に計上した。今後も中国のゼロコロナ政策の動向に注視する必要がある。

#### プラスチックの今後の見通し

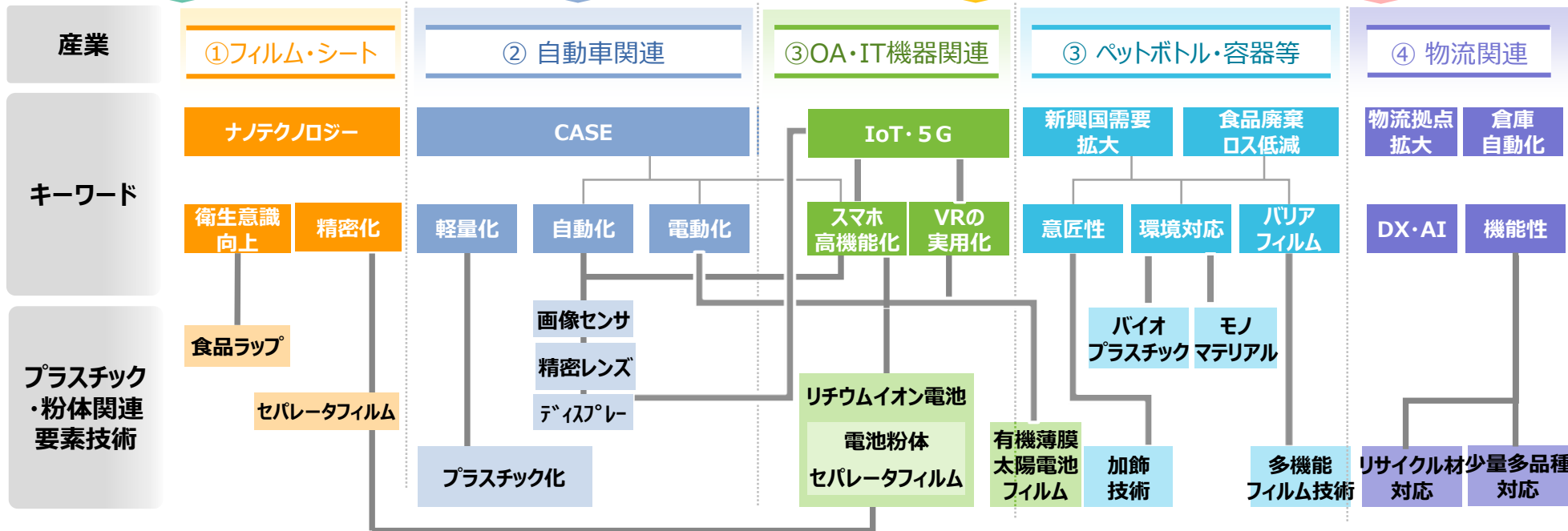
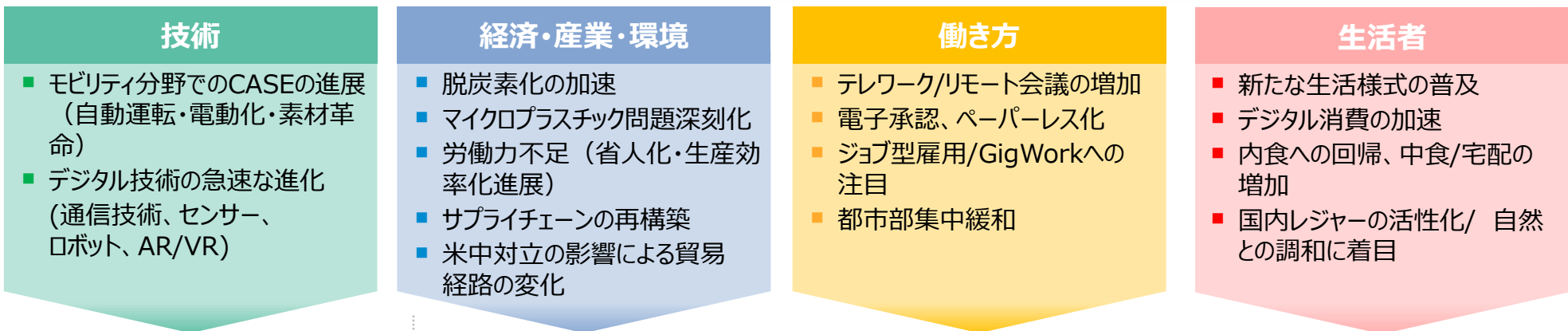
- 国内外の景気及び設備投資は不透明な状況が当面続くと思われるが、中長期的にはプラスチックは世界の人々の生活にとって欠かすことのできない素材であり、今後もさまざまな分野で需要の伸長が期待される。
- 地球レベルでの環境問題(脱炭素、使い捨てプラスチックの削減)に対しては、お客様の生産現場や自社の事業活動において、また、お客様が生産する製造物を通じて、社会へ貢献していく。プラスチック削減の動きも見られるが、当社グループは、創業以来培ってきた実績、知見やノウハウ等をベースにリーディングカンパニーとして積極的な対応を行う。特に、省エネルギー、バイオプラスチック、リサイクルの分野は当社にとってビジネスチャンスになり得ると考える。

#### 当社グループの今後の事業環境

- 世界経済は、緩やかな回復基調が続いてきたが、インフレの加速とそれに伴う各国中央銀行の相次ぐ金融引き締めにより不透明感が強まってきている。資源価格の高騰とウクライナ情勢の長期化や中国の厳格なゼロコロナ政策の継続など地政学的リスクが高まっている。
- わが国経済も、ウイズコロナ政策のもと、経済活動の正常化に向けた回復の動きが続いているものの、原材料価格の高騰や急激な円安の進展等により景気下振れリスクが強まっている。
- 自動車関連、電子部品関連業界は、裾野も広く今後も伸びが期待できる業界であり、引き続き当社の主力業界として取り組む。特に、自動車の電動化、自動運転化、車体の軽量化等には積極的に技術や資源を投入する。
- ウイズコロナの環境下、社会の変化に伴うタブレット、PC、スマホ、VR等の通信機器拡大、AI、IoT、5G等のデジタル化推進の動きへの確に対応する。
- アジア諸国の生活水準の向上に伴う汎用品の生産拡大への対応、北中米での自動車、ハイテク業界への取組みを着実に実行する。フィルム・シート関連については、日本での需要に加えて、中国やアジア諸国での生産拡大にも対応強化していく。
- 日本国内においては、生産年齢人口の減少やソーシャルディスタンス確保に伴い、今後も省人化投資、生産効率化投資は増加するものと思われる。また、インターネット通信や交通・建築・土木等の社会インフラ整備に伴う需要にもしっかりと対応していく。更に、グローバル展開する日系企業に対しては、日本国内のマザー工場、研究開発センターへのアプローチと実績づくりを強化する。

### 3. 事業環境

## ② ウイズコロナの社会構造変化とプラスチック産業の課題



社会の変化に伴う通信機器拡大、AI、IoT、5G等のデジタル化推進の動きへの的確に対応

自動車の電動化、自動運転化、車体の軽量化等には積極的に技術や資源を投入



### 3. 事業環境

## ③ セグメント別状況/国内プラスチック製品・成形機の生産動向

### セグメント別状況

#### 日本

- 2021年の国内の射出成形機の出荷台数は2020年の反動で上昇した。2022年は部品供給不足による納期長期化等の不透明な要素があるものの、増加を見込む
- 国内の押出成形機の出荷金額予測は2022年は2021年を上回る見込みであり、2023年は横ばい予測であるため、需要を着実に取り込む

#### 東南アジア

- インドネシア：二輪の生産向けを中心として回復基調、タイ：自動車関連向けを中心として緩やかな回復基調、フィリピン：OA機器関連を中心に回復基調、ベトナム：市場が多様であり堅調な回復を見込む
- セグメント全体：自動車関連他、OA機器、家電、汎用品生産の業界への設備投資を期待

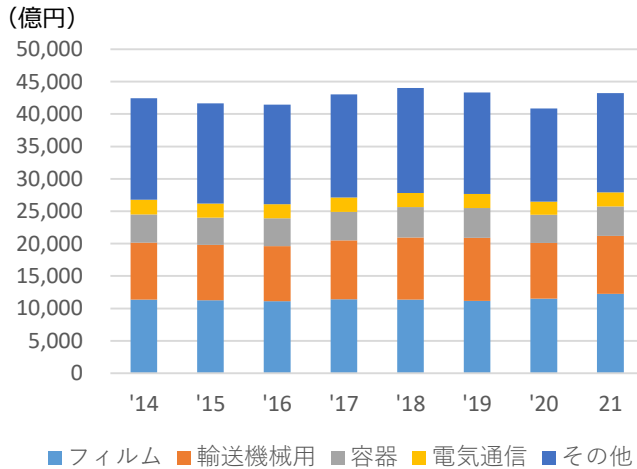
#### 東アジア

- 中国：EV等新エネルギー車関連への投資の増加、医療、包装資材等の分野に対して、積極的にアプローチする
- 中国における活動制限や部品供給不足等は緩和傾向にあるが、成形機及び周辺機器では引き続き納期長期化等が懸念される
- 台湾：スマホ、VR用レンズ関連の設備が堅調に推移

#### 北中米

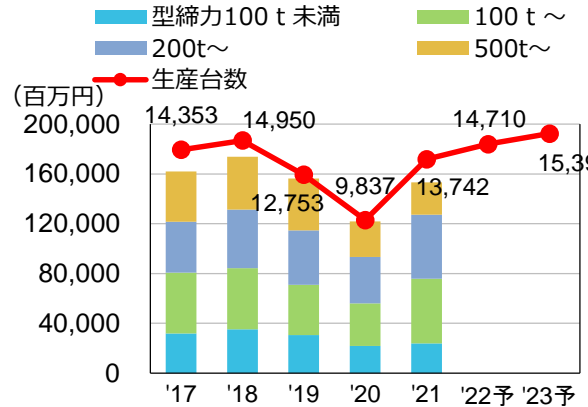
- 自動車、医療関連を中心とした日系企業の投資回復基調
- 直販を軸として、商社やWebシステムを活用した販売網の整備やサービス体制の確立

### 国内プラスチック製品販売実績推移



出所：日本プラスチック工業連盟資料

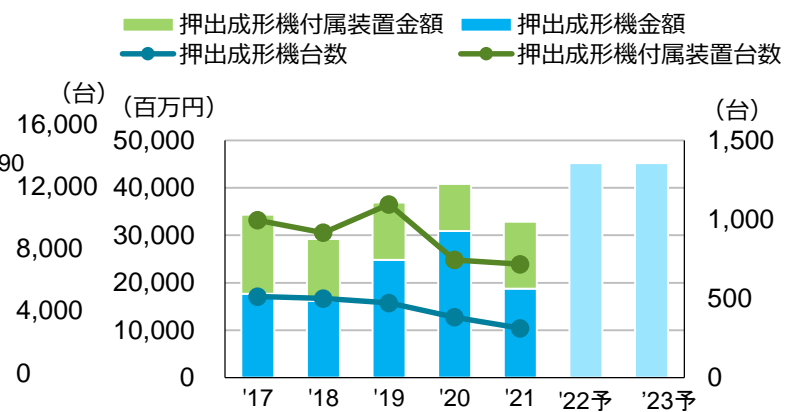
### 射出成形機生産金額・台数推移



出所：経済産業省 機械統計・生産動態統計（実績）

注）2021年迄実績については生産台数実績、2022年以降は出荷台数予測

### 押出成形機生産金額・台数推移



出所：日本産業機械工業会（2022年2月予測）

## 4. 2023年3月期業績予想

### ① 損益計算書 (P/L) 予想 (連結)

(単位：百万円、%)

	2022年3月期			2023年3月期 (2022年10月修正予想)			コメント
	金額	構成比	増減率	金額	構成比	増減率	
売上高	18,383	100.0	9.5	19,600	100.0	6.6	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年9月末の受注残高12,346百万円であり、今後の売上計上が見込めることから前期比増収の見込み</li> </ul>
売上総利益	5,162	28.1	12.7	5,587	28.5	8.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料費を中心とした原価低減や諸経費の削減と、売上増による製造固定費単価の減少により、売上総利益率の改善を見込む</li> </ul>
販売費及び一般管理費	4,401	23.9	8.0	4,797	24.5	9.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>売上高増加による経費増が見込まれるが、引き続き人件費や諸経費の抑制に努める</li> </ul>
営業利益	760	4.1	50.3	790	4.0	3.9	
経常利益	903	4.9	51.4	1,000	5.1	10.7	営業外収支の主な増減内訳 143→218(+75) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 為替差益 105→221(+116)</li> <li>■ 保険解約返戻金 39→12(△27)</li> <li>■ 助成金及び補助金収入 19→2(△17)</li> <li>■ 支払利息 △47→△37(+10)</li> <li>■ その他 11→1(△10)</li> </ul>
(親会社) 当期純利益	540	2.9	82.4	570	2.9	5.4	
減価償却費	321	—	▲8.1	325	—	1.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>カワタテクニカルセンターは2023年3月竣工予定のため、減価償却費用は前期と概ね横ばいの見込み</li> </ul>
設備投資額	338	—	185.5	738	—	118.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>カワタテクニカルセンター建設費用(448)、子会社の土地購入費用(115)</li> </ul>

(想定為替レート(2022.10.31)1ドル=144.81円)

## 4. 2023年3月期業績予想

### ② セグメント別売上高予想（連結）

（単位：百万円、％）

（売上高）

	2022年3月期			2023年3月期 (2022年10月修正予想)			コメント
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
日本	11,090	56.6	▲4.7	12,800	61.1	15.4	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3四半期以降も堅調に推移し、年度では前年実績を上回る見込み</li> </ul>
東アジア	6,498	33.2	41.5	6,050	28.9	▲6.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022年9月末の受注残高は前年同期比45.6%増の3,680百万円であり、今後の売上高増加を見込む</li> <li>第3四半期以降の売上は、前年同期や今年度第2四半期累計と比較して増加を見込むが、今年度第2四半期までの未達分をカバーできず、年度では前期比マイナスを見込む</li> </ul>
東南アジア	1,781	9.1	25.0	1,850	8.8	3.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>景気は回復の動きがあるが、設備投資の増加までに至らず、前年とほぼ同水準を見込む</li> </ul>
北中米	216	1.1	123.4	250	1.2	15.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>絶対額は小さいが、受注高増加による売上増を見込む</li> </ul>

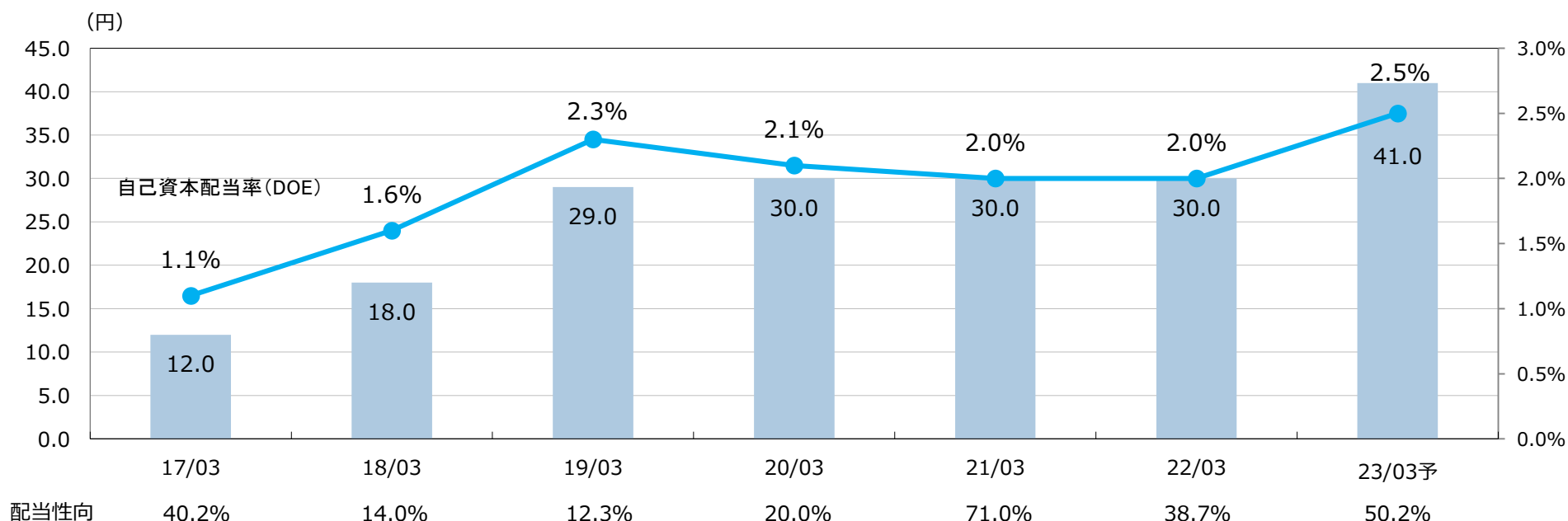
（注）構成比は連結調整額を除いて算出

# 5. 配当政策

## 配当性向・自己資本配当率（DOE）推移（2022年10月現在）

### 配当方針

株主の皆様への還元(配当または自己株式の取得)を充実させる一方で、高付加価値製品の開発や新規販売分野・地域の拡大、新規事業開発や戦略投資等にも積極的に経営資源を投下することにより、市場対応力のある企業として成長を続け、企業価値・株主価値を高めていくことを基本方針としております。中長期的には、株主資本と負債のバランスを適切な水準に維持しつつ自己資本利益率(ROE)を安定して8%以上確保できる事業構造の構築と、自己資本配当率(DOE)を安定して2.5%以上確保することを目標としております。



### 株主優待制度の廃止について

株主の皆様に対する公平な利益還元という観点から、慎重に検討を重ねました結果、配当金によって、全ての株主の皆様への直接的な利益還元を充実することがより適切であると判断し、2022年3月31日現在の当社株主名簿に記載された100株（1単位）以上保有する株主の皆様への贈呈を最終として、株主優待制度を廃止いたしました。



## Ⅲ. 経営戦略



# 1. 経営理念

現場第一主義を基本姿勢とし、従業員満足度と株主価値を向上しながら、  
グループの総合力を持って業界NO.1メーカーを目指します

われわれは「三力」をもって生産に励み、社運の伸展につくし、  
企業を通じて 社会の平和と繁栄に寄与せんことを期する

知力

努力

協力

社是

## 創業以来の精神

お客様や社会が求めているものを  
考えて、手助けとなる製品やサー  
ビスを提供する

経験や知識がなくても、将来性があ  
るものには挑戦する

挑戦する時の実施スピードの速さ

従業員とともに歩んでいく経営姿勢

基本姿勢

## Step By Step Growth

「プラスチックをはじめとする粉粒体  
による製品製造現場において、  
省力化機器のスペシャリストとして、  
お客様のニーズにマッチした、品質  
の高い、他社の追随を許さない  
オンリーワン製品をお届けすること  
により、社会に貢献する」

経営理念

KAWATA



SDGs

当社は、「社是」、「経営理念」を継続的に推進・実行することで、  
環境、社会、経済の各課題に真摯に取り組み、

国連サミットで採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に貢献する。

1. お客様の生産現場において、生産性の向上と省力化・省エネルギー・省資源化に貢献する。
2. お客様が生産する地球環境に優しい製品を通じて、世界の環境保全に貢献する。
3. 自社の事業活動において、生産性の向上と省力化・省エネルギー・省資源化を推進する。
4. お客様や自社における廃棄物削減のための取り組みとリサイクルへの対応を推進する。
5. 持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長と生産的で働き甲斐のある人間らしい仕事を両立する。
6. あらゆるステークホルダーと連携・協働して開発目標達成に努める。

1. 市場が求めるものを常に探求し、お客様に喜ばれる製品・サービスを提供する
2. お客様が製造する消費財・生産財を通じて、世界の人々のより豊かで安全な暮らしに貢献する
3. 従業員の自主性と働きがいを重視し、会社を持続的に成長させる
4. 株主、取引先、地域社会の皆様から、「いい会社」と呼ばれる会社になる

## 2. 2022年度中期経営方針

# ① 中期経営方針・中期経営戦略

### 中期経営方針

～世の中から必要とされる「優良企業」を目指す～

#### ESG経営の強化

- 環境・社会への貢献
- 透明性の高いガバナンス
- 全てのステークホルダーへの配慮  
(株主、従業員、販売先、仕入先、金融機関、政府・自治体、地域社会)

#### 少数精鋭かつ高収益体質の確立

- 人材採用、教育の為の投資
- 省力化、省人化、システム化の為の投資
- 研究開発、技術力向上の為の投資
- 事業領域拡大の為の投資 (M&A含む)
- 工場等の更新、能力増強、効率化の為の投資
- 安定的に当期利益10億円以上の確保、ROE 8%以上、DOE 2.5%以上

### 中期経営戦略

#### 新規市場、成長分野における事業展開の強化

- グループの総合力を結集し、情報収集、調査・分析、開発、プロモーションを強化
- 自動車業界のCASE進展における新技術、新機能への対応
- リチウムイオン電池関連の販売拡大、全固体電池関連の開発・ビジネスマッチングの推進
- AI、IoT、5G等、世界規模の新技術や新規格への対応
- レンズを含む光学部品業界への販売拡大 (技術開発力と品質の更なる向上)
- 地球環境に優しい新素材や複合材、リサイクル材への対応
- 北中米における自動車、ハイテク、医療業界を中心とした販売拡大と体制づくり
- 日本におけるマザー工場、研究開発センターへのアプローチと実績づくり

#### 既存市場、既存分野での販売拡大と収益力向上

- 地域や分野特有のニーズに対応した製品開発と販売
- 省エネルギー、省力化機器の開発と販売拡大
- Q.C.D. (品質・コスト・納期) の継続強化による競争力の高い製品づくり
- グループ間における、設計、製造、販売、サービスの情報の共有化と、地域毎、会社毎のミッションの明確化と相互支援協力体制の構築
- 提案営業力、技術力、サービス (ビフォー、アフター) 力の向上による顧客満足度向上





#### 経営基盤の強化とESG経営の推進

- 透明性の高い企業統治 (コーポレート・ガバナンス) の実現
- コンプライアンス意識の徹底による誠実な企業活動
- 研究開発、人材開発への継続的な取組み強化
- 業容拡大の為の戦略的投資の実施
- ダイバーシティへの取組み強化と、優秀な人材確保
- グローバル人材育成のための制度・運用とグループ間人材交流の強化
- 生産・販売・サービス拠点、販売促進・技術力向上・人材育成の為の設備の見直しと再構築

## 2. 2022年度中期経営方針

### ② 地域別部門別具体的取組事項

- これらの施策を着実に実行することにより、中長期的に安定した経営を目指します

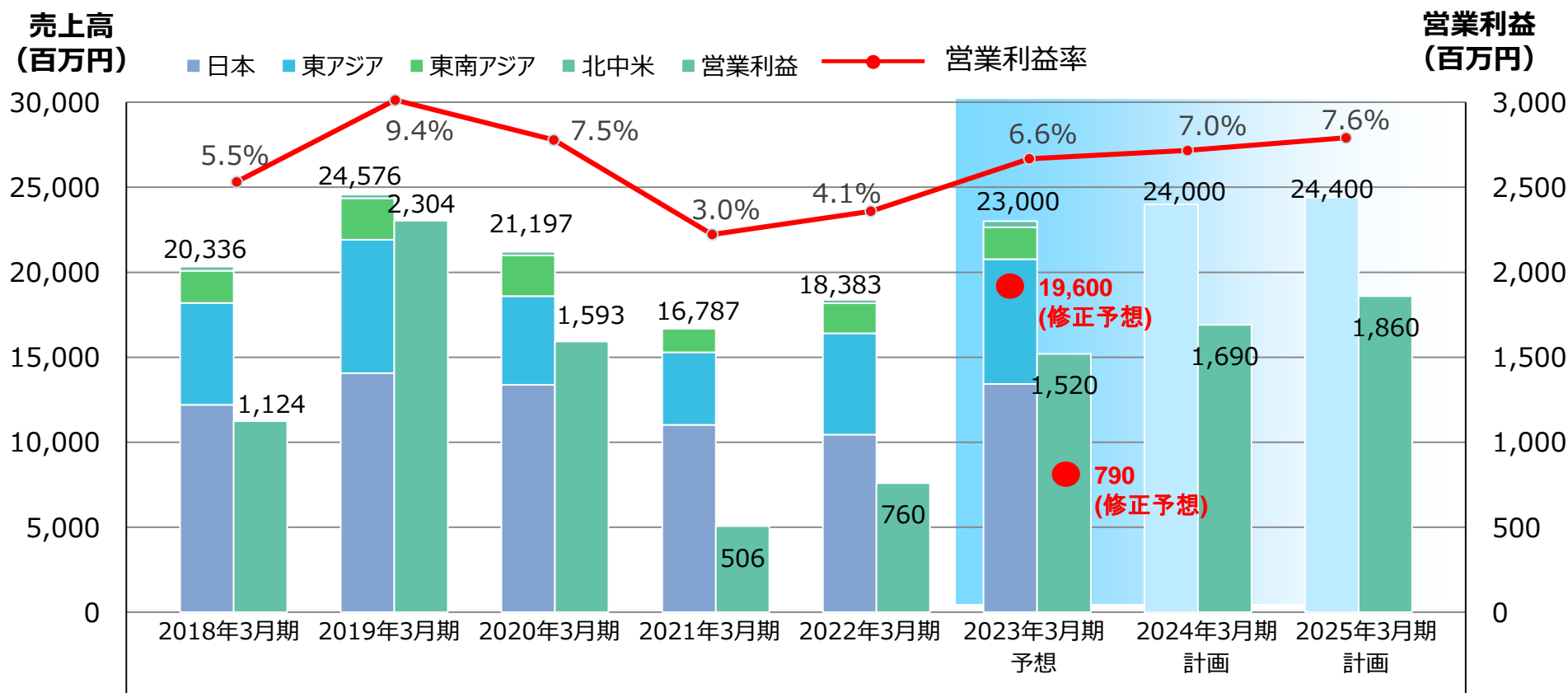
	営業・サービス戦略	技術・製品開発戦略	生産戦略
 <b>日本</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連、フィルム、レンズ、医療、リモートや5G等の通信、OA機器関係を中心に営業活動の強化</li> <li>リサイクル用対応製品の再構築</li> <li>新素材、新規分野への進出</li> <li>サービス体制の強化</li> <li>リモートによるサービス活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新素材、二次電池用部材関連の技術・製品の開発</li> <li>光学用新材料、新素材に対応</li> <li>IoTへの対応や、AI化等機器開発強化</li> <li>グループ各社への技術支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場ニーズに対応したQCDの推進</li> <li>購買先の整理と開拓、及び支給品の見直し</li> </ul>
 <b>東アジア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>EV等新エネルギー車用LIB、車載レンズ等の自動車関連業界への販売強化</li> <li>医療、光学、食品容器の分野に対する販売強化</li> <li>LIBを中心とした粉体関連業界やシートフィルム等に向けた押出機の市場への販売体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>粉体設備の設計の標準化推進</li> <li>光学用製品の品質向上</li> <li>環境負荷低減、省エネ、省力化対応製品の開発</li> <li>CE標準への対応推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部品の共通化、標準化の推進</li> <li>製品検査基準明確化と適性運用</li> <li>品質向上</li> </ul>
 <b>東南アジア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車関連、シートフィルム、ペットボトル業界への展開</li> <li>OA機器関連、家電、光学関連業界への販売強化</li> <li>汎用品生産の業界へのアプローチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成形機との通信を中心としたIoTへの対応</li> <li>温度管理機器の高性能化による他社との差別化</li> <li>生産機種数の拡充</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生産管理体制の再構築</li> <li>ISO運用による更なるQCD向上と効率化</li> <li>ローカルスタッフで生産できる体制の構築</li> </ul>
 <b>北中米</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>商社やWebシステムを活用した販売網の整備やサービス体制の確立による売上拡大</li> </ul>	<b>組織・人事戦略</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>内部統制システムの効率的運用とコンプライアンス意識の徹底</li> <li>グループ各社との人材交流</li> <li>幅広い知見・経験とチャレンジ精神を持った人材の育成</li> </ul>	



### 3. 2022年度中期経営計画 数値目標 (2022年5月現在)

- 中期経営計画の数値目標はローリング方式
- 2023年3月期は、前期比増収増益を見込むが、2022年5月11日公表数値より下回る見込み
- 2024年3月期以降は持続的かつ安定的な成長を見込む

#### 売上高、営業利益目標



自己資本利益率(ROE)	11.3%	18.4%	10.6%	2.8%	5.0%	8.7%	9.0%	9.4%
自己資本配当率(DOE)	1.6%	2.3%	2.1%	2.0%	2.0%	2.5%	2.5%	2.5%

(修正予想は2022年10月31日公表)

# 4. ESG経営～中期経営計画におけるSDGsへの取組

- SDGsへの貢献を重要な経営課題と位置づけ、グローバルな社会課題解決に向けた目標達成への貢献を目指し、活動の意義と照らし合わせた取組を推進

## 環境 (Environment)

### マテリアリティ

### 本業を通じた環境保全



### チャレンジCES

- 当社の製品開発指針である、チャレンジCES(低コスト(C)、省エネ設計(E)、省スペース化(S))に基づく、機器の開発と販売展開

### NEV/HEV普及に向けた技術対応

- 電動化に伴う脱炭素(CO2排出削減)による環境負荷低減に貢献するためのリチウムイオン電池や全固体電池への技術対応と展開
- 車体の軽量化に伴うCO2排出削減による環境負荷低減に貢献するための部品のプラスチック化への技術対応と展開

### 省力化機器

- お客様の工場生産における作業の合理化を推進するための(省力化)機器の開発と販売

## 社会 (Society)

### マテリアリティ



### お客様との関わり

- バイオプラや、生分解プラ等により環境負荷低減に貢献する新材料・新素材等の成形技術に対応するための研究開発と展開
- プラスチック廃棄物の削減に貢献する技術に対応するための研究開発と展開
- プラスチックリサイクル業界への機器の販売展開

## ガバナンス (Governance)

### マテリアリティ



### コーポレートガバナンス/コンプライアンス

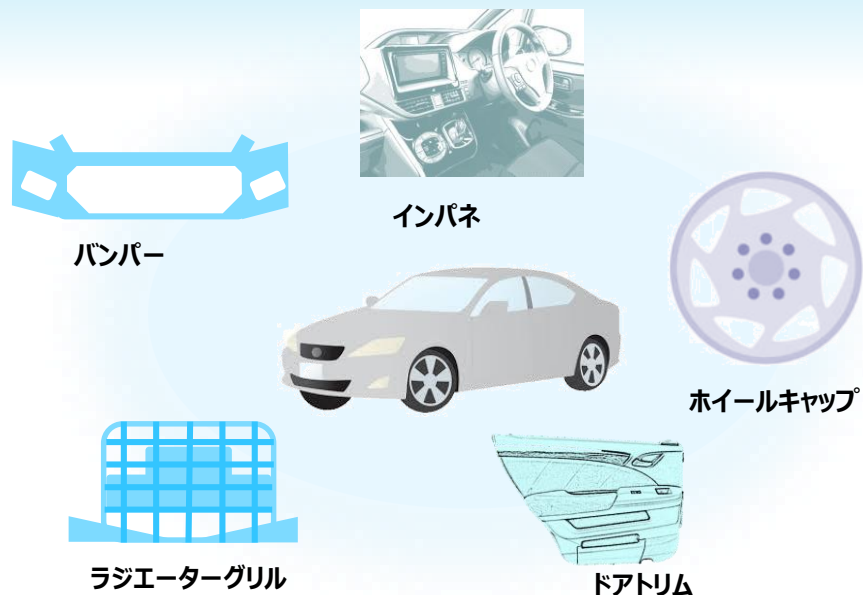
- 株主、取引先、従業員、地域社会との連携・協働の推進
- 原料メーカーや機器メーカーとの連携・協働の推進
- 産官学との連携・協働の推進
- CSR経営の強化と推進

## 5. 経営戦略トピックス

### ① 自動車関連・CASEへの対応

- 自動車の電動化、自動運転化および軽量化による市場が拡大、対応が不可欠

#### 現状の自動車関連部品に使われているプラスチック製品



#### CASEの進展に伴い伸長する分野

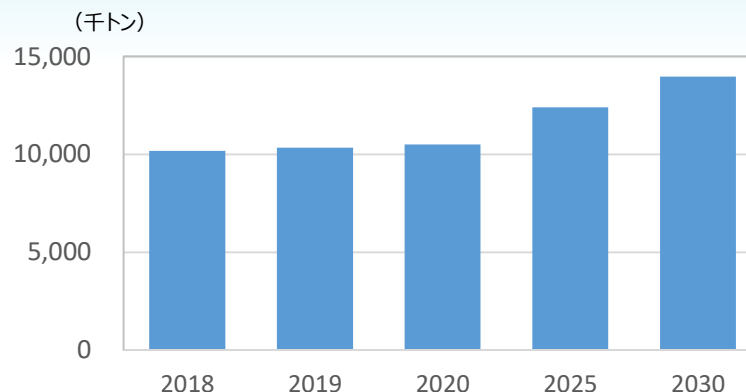
- 軽量化  
プラスチック部品の増加、ボディ等のプラスチック化
- 自動運転化  
車載カメラ・センサーの増加
- 電動化  
リチウムイオン電池・次世代電池の増加



#### 市場規模予測

##### 自動車用樹脂の市場規模

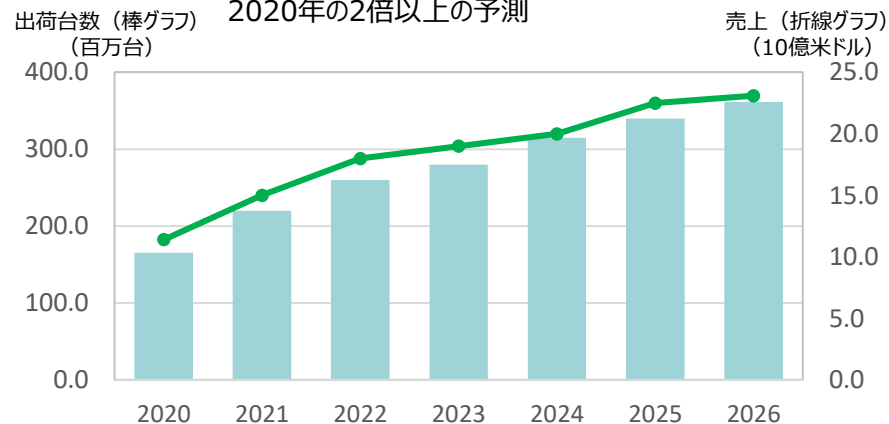
- 2030年は2018年の40%程度増に拡大を予測



出所：公開情報等をもとにした当社予測

##### 車載カメラ・センサー世界市場動向

- 車載カメラセンサー世界市場は2026年に、2020年の2倍以上の予測



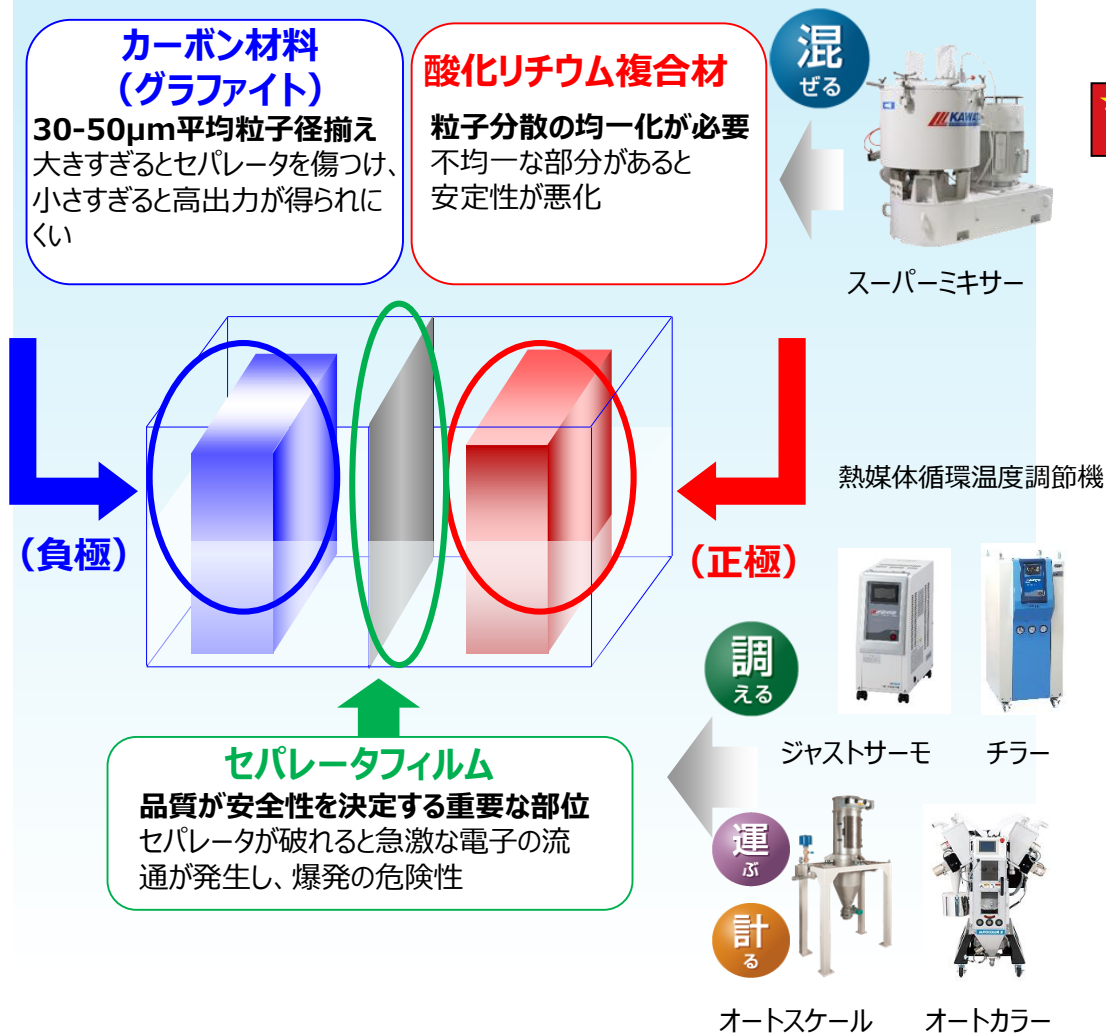
出所：公開情報等をもとにした当社予測

## 5. 経営戦略トピックス

### ②-1 リチウムイオン電池（次世代電池市場への対応）

- 安全なリチウムイオン電池の製造には高度な粉体混合技術/高品質フィルム製造技術が不可欠
- 中国における省エネ・新エネルギー車両技術ロードマップ2.0の発表により、FCV・EVの市場拡大とガソリン車のHV義務化が示され、今後のリチウムイオン電池・次世代電池市場の継続的な拡大が明確化

#### リチウムイオン電池の構造と生産に必要な要素技術



#### 中国：省エネ・新エネルギー車両技術ロードマップ2.0

- 中国自動車技術者協会(China-SAE)による2035年ビジョン「節能与新能源汽车技術路線図2.0」(2020/10)が発表

	全体におけるFCV・EV等新エネルギー車比率	全体におけるHV比率	1ℓあたりの平均燃費 Km/ℓ	新車販売台数
2019				2,576.9万台
2025	20%	40%	21.7	約3,200万台
2030	40%	45%	31.2	
2035	50%	50%	50.0	

#### リチウムイオン電池・次世代電池市場の継続的拡大

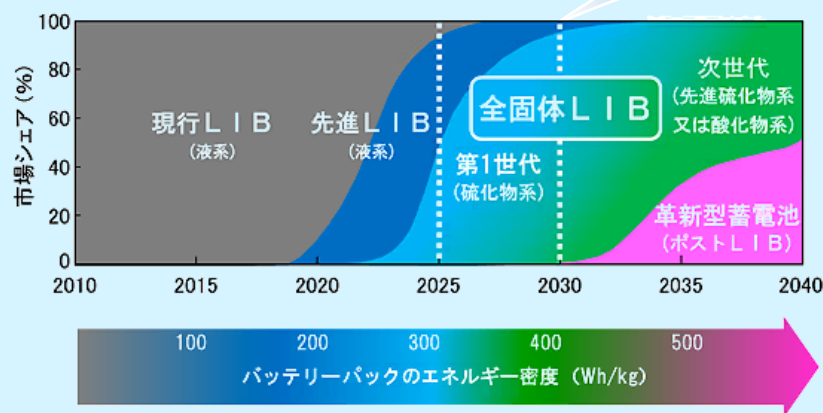
- FCV・EV・HV車共通に必要なとなるリチウムイオン電池部材市場に対し、中国工場でのスーパーミキサーを始めとする粉体用機器の製造ラインを充実、一層の拡販を目指す
- セパレータフィルム製造用機器は日本国内及び中国での拡販を目指す
- 次世代電池として期待されている「全固体電池（全固体リチウムイオン電池）」の量産化に向けた技術・製品開発を継続

## 5. 経営戦略トピックス

# ②-2 リチウムイオン電池（関連事業の現状と今後の展望）

### EV用バッテリーの技術シフトの想定

- 全固体LIBの本格実用化には2025年前後を想定
- 液系リチウムイオン電池も進化を続けており、今後（2020-2025年）も当面の間は液系が市場の主役に



出所：NEDO公開資料

### 液系リチウムイオン電池（従来型）について

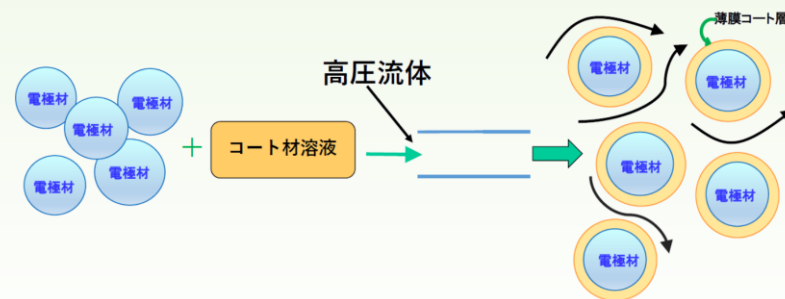
- 正極材生産用スーパーミキサーやセパレーターフィルム成形用周辺機器を提供



### 全固体リチウムイオン電池について

- 次世代の車載用二次電池として、全固体電池が現行のリチウムイオン電池を置き換える「ゲームチェンジャー」として期待
- 量産化にはいくつかの技術課題。**カワタはその課題の一つである「電極活物質への無機材料の薄膜コーティング技術」の実用化開発に取り組み、2019年にNEDO助成事業として採用され、2020年9月に無事終了し技術面及び事業面で一定の評価を獲得**
- 今後も更なる研究開発や市場調査に注力し、全固体電池実用化の実現に参画を継続

#### 全固体リチウムイオン電池の原理



出所：NEDO公開資料

## 5. 経営戦略トピックス

### ③ 光学製品成形への取組み

- 超高精度が要求される光学製品のプラスチック成形には、金型温度調節、乾燥、粉塵除去など周辺機器における高度な成形安定化技術が必須
- 光学機器の多眼化・高性能化による世界での光学レンズ枚数の飛躍的増加に対応、対応周辺機器の開発・生産に取組

#### スマートフォン用カメラレンズ

- スマートフォンの世界生産は約14億台で推移も多眼化・高性能化によりレンズ枚数の飛躍的増加が見込まれる



- 高濃度窒素乾燥機  
\* プラスチック成形加工学会  
「2019年度技術進歩賞受賞」

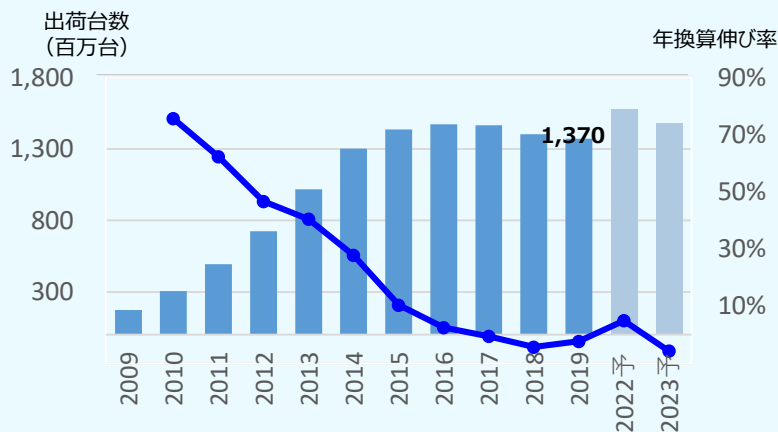


- 高温金型温度調節機  
(水媒体160~180℃)



#### 世界スマートフォン出荷市場動向

- スマートフォン世界出荷台数2019年は13億7000万台、今後も伸び率は減少するものの生産台数は安定的に推移



出所：公開情報をもとに当社作成

#### VR用レンズ

- VR/VR関連市場予測として2019年168.5億ドル
- 2023年には1,606億ドルに達する見通し



- 窒素乾燥・粉塵除去技術



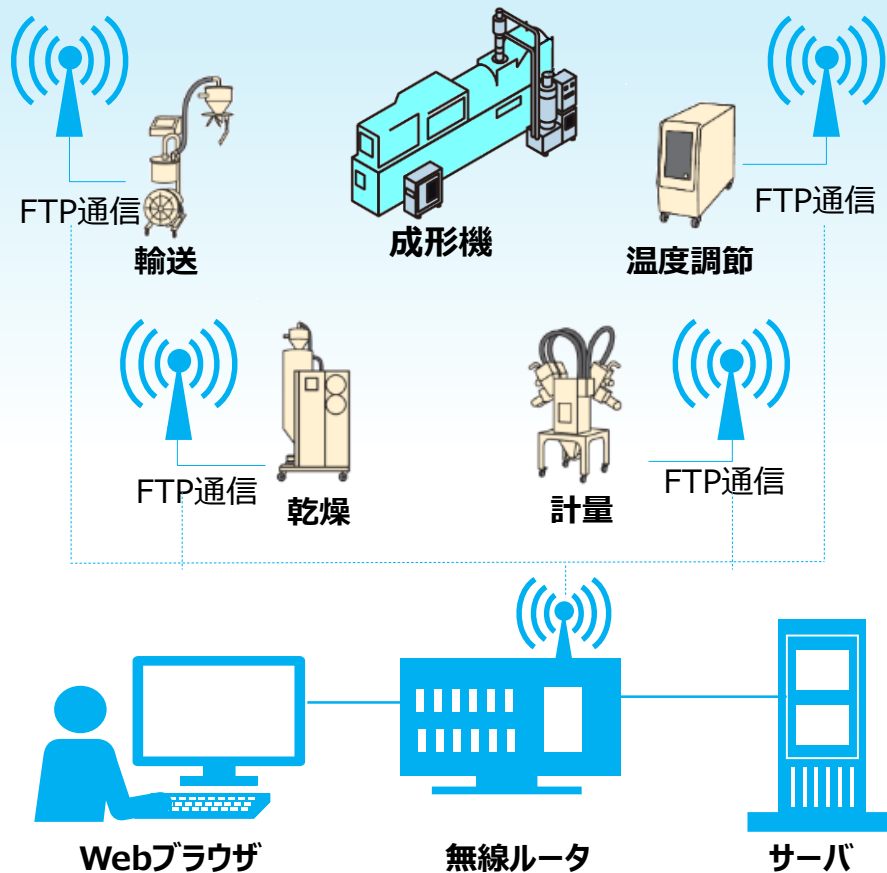
- 金型温度管理技術

## 5. 経営戦略トピックス

### ④ IoT生産への取組み

- 近年の生産現場の課題である①省力化②技術伝承のIT化③省エネ化への対応のため、成形機や管理システムへのデータ通信対応を推進
- 環境の変化・設定の変化・機械の変化・材料の変化を監視して、情報を蓄積し分析することで、安定成形の環境を提供  
情報のアウトプット  
⇒機械の測定データ(温度・計量値など)、運転データ(運転時間・配合表)、機器運転設定情報外部入力信号による運転異常・変化を予測・自動対応作業者へ運転サポート、自律学習機能により精度向上、データを基に必要情報を外部出力

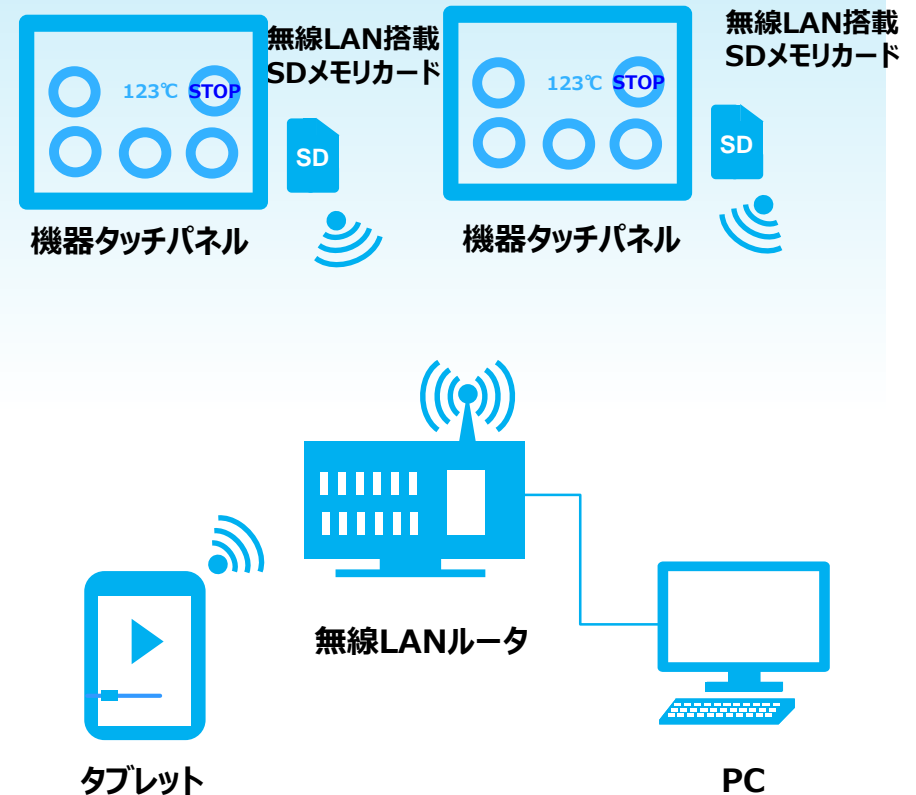
#### 成形機周辺機器データ通信対応



- データを閲覧
- 保存されたデータを分析
- 生産ライン保全に活用

- Web/データベースサーバの機能
- データリスト表示
- 過去データの抽出

#### データモニタ機能



- 機械の状態が外部から、常時、確認することができ、現場にいなくても機械の稼働状況(温度や重量等)の管理が可能

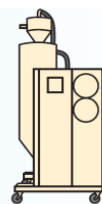
## 5. 経営戦略トピックス

### ⑤ 環境対応製品

- カワタ製品開発指針チャレンジCES※により省エネ・省スペース製品への取組
- バイオプラスチック等環境対応製品に対応する新素材に係る新たな製造技術について素材メーカーとの連携や日本バイオプラスチック協会JBPA加入、リサイクル技術関連の情報を収集

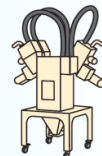
#### 環境対応素材への対応

- バイオエンブラ（植物由来樹脂）  
⇒車の外装
- 生分解性樹脂  
⇒農業用フィルム(地中有機分解)
- VOC対策技術(脱臭装置)



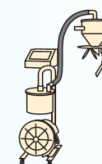
乾燥機

- 車載用塗装レス設備  
— 光沢・金属の質感を実現する樹脂素材  
— 塗装レス樹脂部品は射出成形のみで成形  
→製造コストを大幅削減可能。  
— 作業負担や揮発性有機化合物(VOC)とも無縁



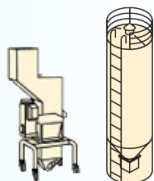
計量混合機

- 多層バリアフィルム  
— 食品包装分野=SAVE FOODの面でロングライフ化の要求⇒高いバリア性能  
— 医薬品、化粧品 その他の分野へ応用



輸送・計量機

- PETボトル  
⇒マテリアルリサイクル  
ペットボトル用ペレットとして再生利用
- 食品容器用PETシート  
⇒PET材料リサイクル



ペレット再生設備

#### 省スペース化への対応

- チャレンジCESにより省スペース化に対応、環境への負荷軽減を図る



※社内基準として、「価格（C=コスト）」、「省エネ（E=エネルギー）」、「省スペース（S=スペース）」のCES = 従来機比10%以上の改善ができたものについては、  
＜カワタエコマーク＞ Challenge CESマークを機器に貼付しております



## 5. 経営戦略トピックス

### ⑥ 2023年3月期第2四半期トピックス

#### 【トピックス1】 「カレントロニック事業」の一部事業譲受

- 株式会社クボタ計装から「カレントロニック事業」の内、原料機器の製造・販売・アフターサービス業務を譲受することで合意
- 本件の狙い
  - 顧客基盤の拡充
  - 「運ぶ」「計る」「混ぜる」に関わる製品群を補完、製品ラインアップの拡充
- 2022年9月30日に契約締結、2023年4月1日より業務開始予定

#### 【トピックス2】 カワタテクニカルセンターの建設

- 三田工場隣接地に建設
  - 2023年3月竣工予定
  - 敷地面積1,655㎡、建物延床面積1,682㎡（予定）
- 人的資本への投資の一環
  - 技術・技能の伝承
  - 製品開発力、技術力、営業力、サービス対応力の向上
- テストセンター及び当社製品をご覧いただけるショールーム機能を併設

容積式計量混合機 ミコスーパー



質量式計量混合機 ミコウェイ



原料輸送装置 CSF



粉体輸送装置 CSP



【完成予想図】





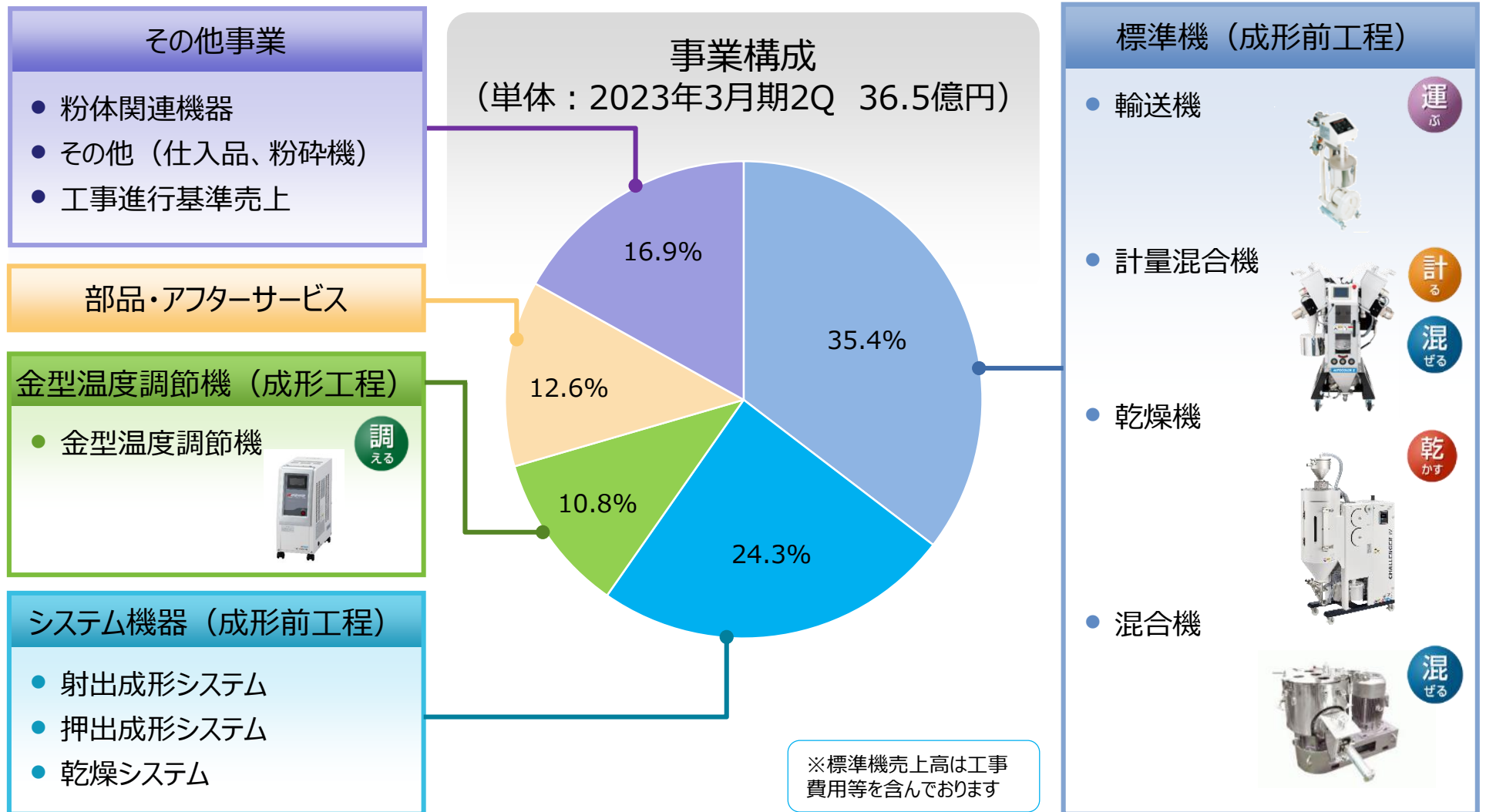
# Appendix. I

事業構成（単体）  
事業ネットワーク  
技術の沿革  
技術力の特徴



# 1. 事業構成（単体）

- プラスチック成形合理化機器関連事業、輸送・計量・乾燥・混合がコア技術
- コア技術を有機的に組合せた独自のハンドリングによるシステム装置が主力





# 3. 技術の沿革



1935	1951	1962	1970	1973	1983	1987	1996	2002	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2020	2021		
創業	<b>混</b> ぜる ■ 高速流動混合機 (スーパーミキサー) 開発	<b>乾</b> かす ■ 西独社と脱湿型乾燥機 (チャレンジャー) の技術提携、生産開始	<b>乾</b> かす ■ 連続粉体供給装置 (ウイングスケーラー) を開発	<b>乾</b> かす ■ 脱臭装置	<b>乾</b> かす ■ 脱湿乾燥機 DFCシリーズ	<b>乾</b> かす ■ 脱湿乾燥機 DRDシリーズ	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>乾</b> かす ■ 金型温度調節機 TWシリーズ	<b>乾</b> かす ■ DVD成形対応材料輸送乾燥供給システム開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	<b>乾</b> かす ■ 超小型真空式乾燥機 (デコ) を開発	
	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	<b>運</b> ぶ ■ 吸引輸送機 (オートローダー) 実用新案	
	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発	<b>計</b> る ■ 川田製作所法人改組 ■ 押出成形機を開発
	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始	<b>調</b> える ■ サーマテック金型温度調節機生産開始
	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発	<b>混</b> ぜる ■ 超省スペース計量混合機 LC-50 を開発

## 4. 技術力の特徴・業界シェア・順位

- 国内プラスチック製造装置合理化システムにおける技術の優位性・特許取得は主要製品におけるトップシェア確保を可能に

### 液晶画面関連（フィルム、シート）等

- 液晶画面の大型化、多機能化に伴い、高品質光学フィルム需要の伸長下、**クリーン技術**を駆使
- 材料の貯蔵から輸送、除粉、乾燥までトータルな成形支援システムを提供



保有特許8件  
出願中1件

### レンズ関連（携帯電話関連レンズ等）

- 窒素乾燥技術**を中心に、酸化防止や安定した水分率管理ができる**乾燥システム**及び**高精度な金型温度調節機**を提供
- 不良率の低減と高品質製品の生産に貢献
- クリーンルーム完備により製品品質も安定



保有関連特許18件

### ペットボトル関連（ペットボトル等）

- 豊富な乾燥ノウハウと革新的な発想に基づき、**樹脂の加水分解・酸化劣化を抑制**
- 必要最小限のエネルギーで効率的な乾燥を実現



保有特許1件

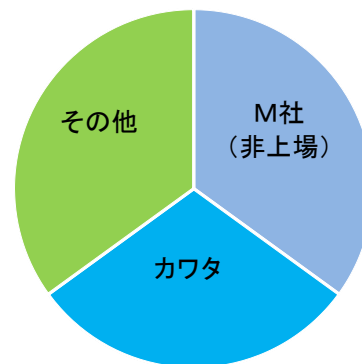
### プリンター関連（カラートナー等）

- 半世紀以上も前に生産を開始したヒット商品スーパーミキサーをはじめ、当社の**粉体貯蔵、輸送、高精度計量、高分散混合技術**は、お客様の粉体関連事業をサポート



保有関連特許20件  
出願中3件

当社コアビジネス国内業界シェア  
(売上合計推定300億円)



### 自動車関連（ハンドル・バンパー、部品等）

- ヒット商品の計量混合機オートカラーや脱湿乾燥機など、充実した**省エネ・省力化機器**をラインアップ
- 自動車関連成形業界の生産性の向上に貢献



保有特許34件  
出願中18件



## Appendix. II 決算データ補足



## 2023年3月期第2四半期決算実績

### ① 損益計算書 (P/L) (単体)

(単位：百万円、%)

	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	3,657	100.0	▲16.3	3,654	100.0	▲0.1	■ 日用雑貨や容器・物流関連を中心に受注高は堅調に推移したものの、調達部材の納期遅延の影響等により、若干の減少
売上総利益	769	21.0	▲16.7	788	21.6	2.5	■ 操業度の上昇、製造固定費単価の低下による売上総利益率の上昇
販売費及び一般管理費	734	20.1	0.6	781	21.4	6.4	■ 活動量の増加に伴う、移動経費の増加
営業利益	34	1.0	▲81.9	6	0.2	▲81.1	
経常利益	62	1.7	▲58.2	165	4.5	164.8	■ 営業外損益全体 27→159 為替差益 13→154 貸倒引当金 (▲は繰入) ▲35→▲65
当期純利益	30	0.8	▲64.2	101	2.8	227.8	
減価償却費	57	-	1.1	53	-	▲7.1	
設備投資額	50	-	119.7	301	-	499.3	■ カワタテクニカルセンター関連支出 286



## 2023年3月期第2四半期決算実績

### ② 製品別売上高（単体）

（単位：百万円、％）

	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
標準機	1,379	37.7	▲11.2	1,293	35.4	▲6.2	● 受注高、受注残高は増加したが、部品の納期遅延により、売上は前期を下回る
システム	1,545	42.3	62.4	889	24.3	▲42.5	● 受注案件の大型化により受注高は増加したが、納期の長期化により売上への寄与が少なく工事進行基準売上が増加
金型温度調節機	395	10.8	5.2	394	10.8	▲0.4	● 前年実績並み
部品・アフターサービス	495	13.6	22.9	459	12.6	▲7.2	● 前年実績を下回るが、概ね同水準で推移
その他事業	▲159	▲4.4	▲114.7	617	16.9	-	● 工事進行基準売上の影響 ▲486→+295 ● 工事進行基準売上を除く売上高 327→322
合計	3,657	100.0	▲16.3	3,654	100.0	▲0.1	

※標準機売上高は工事費用等を含んでおります

## 2023年3月期第2四半期決算実績

### ③ 販売先別売上高（単体）

（単位：百万円、%）

	実績						コメント
	2022年3月期第2四半期			2023年3月期第2四半期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
自動車部品	620	17.0	▲12.4	502	13.8	▲19.0	● 乾燥機、水回り機器を中心とした標準機販売であったが、前期比ではマイナス
粉体関連	135	3.7	4.9	443	12.1	228.1	● 電池材料用プラント機器の大型案件(306)により構成比が増加 ● 食品業界向けミキサー売上が好調
容器関連	292	8.0	▲23.5	359	9.8	23.0	● 食品容器向け、薬品用容器が堅調に推移
OA・家電・精密機器	402	11.0	83.7	323	8.8	▲19.8	● 乾燥機、水回り機器を中心とした標準機販売であったが、前期比ではマイナス
日用雑貨	132	3.6	▲72.2	272	7.4	106.0	● 固定客からの受注による売上増
フィルム・シート	1,082	29.6	237.6	236	6.5	▲78.2	● 前期は大型案件の売上があり大幅増となったが、今期は例年と同水準
ペレット・原料関連	111	3.1	▲21.0	162	4.4	45.5	● コンパウンド、樹脂材料向けが堅調に推移
レンズ	61	1.7	▲72.6	146	4.0	137.6	● 台湾、中国向けのVRレンズ関連が好調
記録メディア	15	0.4	218.1	62	1.7	300.1	● 台湾向けのチラー販売が好調
建材関連	179	4.9	▲5.4	61	1.7	▲65.9	● 小口の案件が多く、前期比を下回る
その他	625	17.1	▲60.5	1,085	29.7	74.0	● 小口案件、アフターサービス売上、海外拠点向け部品売上、及び工事進行基準売上

# 本日はありがとうございました

## 粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話：06-6531-8211

e-mail：ir6292@kawata.cc

### 将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。  
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。  
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。  
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。